

**2020年8月10日～9日**

**世論調査（読売・NNN）、敵基地攻撃能力・自衛隊、核・核兵器禁止条約、ナガサキ、政局、コロナ、香港**

### 内閣支持37%、不支持は最高54%…読売世論調査

読売新聞 2020/08/09 22:00

読売新聞社が7～9日に実施した全国世論調査で、安倍内閣の支持率は37%で前回調査（7月3～5日）の39%からほぼ横ばいだった。不支持率は54%（前回52%）となり、2012年12月の第2次安倍内閣発足以降で最高となった。不支持が支持を上回るのは今年4月調査から5回連続だ。

政党支持率は、自民党33%（前回32%）、立憲民主党5%（同5%）などで、無党派層は46%（同46%）だった。

### お盆帰省「自粛を」76%…読売世論調査

読売新聞 2020/08/09 22:00

読売新聞社が7～9日に実施した全国世論調査で、今年のお盆期間中の帰省に対する考えを聞くと、「（新型コロナウイルスの）感染が拡大する恐れがあるので自粛すべきだ」が76%に上り、「感染防止策を徹底していれば問題ない」の22%を大きく上回った。

政府が、7月から旅行代金の割引などで観光を支援する「Go To トラベル」事業を開始したことについては「適切ではなかった」が85%に達した。

### 新型コロナの政府対応「評価せず」66%…読売世論調査

読売新聞 2020/08/09 22:00

読売新聞社が7～9日に実施した全国世論調査で、新型コロナウイルスを巡る政府のこれまでの対応を「評価しない」は66%（前回7月3～5日調査48%）に上昇し、同様の質問をした2月以降6回の調査で最も高くなった。「評価する」は最低の27%（同45%）。

安倍首相が新型コロナへの対応で指導力を発揮していると思わない人は78%に上った。

### 安倍内閣を「支持しない」54%

NNN2020年8月9日 22:40

NNNと読売新聞がこの週末に行った世論調査で、安倍内閣を「支持しない」と答えた人は54%で、第2次安倍政権の発足以来、最も高くなりました。

世論調査で、安倍内閣を「支持する」と答えた人は37%でした。一方、「支持しない」と答えた人は54%で、第2次安倍政権の発足以来、今の調査方式では2018年4月の53%を上回り、最も高くなりました。

また、新型コロナウイルスをめぐる政府のこれまでの対応について、「評価しない」が前の月より18ポイント上がって66%となり、同じような質問を始めた今年2月以降で、最も高くなりました。

「評価する」は最も低く27%でした。

政府が、「Go To トラベル」キャンペーンを先月から開始したことについては、「適切ではなかった」が85%に達しました。

安倍総理大臣は、新型コロナウイルスへの対応で指導力を発揮していると思わなかったところ、「そうは思わない」と答えた人が78%でした。

お盆期間中の帰省については、「自粛すべきだ」が76%、「感染防止策を徹底していれば問題ない」が22%でした。

<NNN・読売新聞世論調査>

8/7～8/9 全国有権者に電話調査

固定電話 533人（回答率60%）

携帯電話 550人（回答率48%）

合計1083人が回答

<http://www.ntv.co.jp/yoron/>

### 【独自】敵基地攻撃に長射程ミサイル 政府検討 島嶼防衛用を転用

産経新聞 2020.8.9 22:02

政府が保有を目指す敵基地攻撃能力について、島嶼（とうしょ）防衛用に計画している長射程ミサイルなどで敵ミサイルや施設を攻撃する案を軸に検討を進めていることが9日、分かった。衛星などで標的を特定し、敵レーダーを無力化して航空優勢を築いた上で戦闘機が爆撃する完結型の「ストライク・パッケージ」を独自保有する案も検討したが、費用対効果などに難点があり見送る。複数の政府関係者が明らかにした。

政府は北朝鮮などを念頭に置いた敵基地攻撃能力として、標的から離れた位置から敵の拠点を打撃する長射程ミサイルを中心に検討を進める。「JASSM（ジャズム）」、極超音速誘導弾などの候補から絞り込む。長射程巡航ミサイル「トマホーク」を米国から購入する案もある。

JASSMなどは平成30年に改定した「防衛計画の大綱」や「中期防衛力整備計画」で調達・研究するとしていた。敵基地攻撃能力ではなく、敵が日本の離島を占拠した場合に奪還するような島嶼防衛用と位置付けていた。

河野太郎防衛相は敵基地攻撃能力について、（1）移動式ミサイル発射装置や地下基地の位置特定（2）敵レーダーや防空システム無力化による航空優勢確保（3）ミサイル発射基地の破壊（4）攻撃効果の評価などで構成されると説明していた。これらは総体として「ストライク・パッケージ」と呼ばれる。

ただ、移動式発射装置に搭載したミサイルの位置をリアルタイムで特定することは難しいとされる。ストライク・パッケージには戦闘機の大量な追加配備が必要で、敵レーダーを無力化するための電子攻撃機や対レーダー・ミサイルなどの装備取得には多額の予算を要する。

PR これに対し、長射程ミサイルは比較的低コストで調達可能で、運用次第で期待する抑止効果が確保できる。敵基地攻撃能力の保有に慎重な公明党にとっても、すでに調達・研究が決まっている装備であれば受け入れやすいとみられる。

自民党ミサイル防衛検討チームは「相手領域内でも阻止する能力」の保有検討を政府に求めている。政府は敵基地攻撃能力とは別に、配備計画を断念した地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」の代替案も検討しており、これも含めた方向性を9月末までにまとめ、年末までに国家安全保障戦略の改定を目指す。

## 抑止力強化へ理解を—自民 敵基地攻撃能力に慎重—公明

2020/8/9 13:05 (JST)8/9 13:17 (JST)updated 共同通信社



公明党の斉藤鉄夫幹事長

自民党の稲田朋美幹事長代行は9日のNHK番組で、北朝鮮の脅威拡大などを踏まえた抑止力強化の議論に理解を求めた。公明党の斉藤鉄夫幹事長は敵基地攻撃能力の保有に慎重姿勢を表明。野党は「軽はずみな議論はやめてもらいたい」（立憲民主党の福山哲郎幹事長）と批判した。

稲田氏は地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」の計画断念でミサイル防衛に穴があいてはならないとして「まず政府に代替策を出してほしい」と述べた。敵基地攻撃能力に関する自民党提言について「相手領域内でも阻止する能力を、憲法や国際法の範囲内で保有するとまとめた」と説明した。

### 「抑止力強化へ理解を」自民 公明は敵基地攻撃能力に慎重

産経新聞 2020.8.9 14:02

自民党の稲田朋美幹事長代行は9日のNHK番組で、北朝鮮の脅威拡大などを踏まえた抑止力強化の議論に理解を求めた。公明党の斉藤鉄夫幹事長は敵基地攻撃能力の保有に慎重姿勢を表明。野党は「軽はずみな議論はやめてもらいたい」（立憲民主党の福山哲郎幹事長）と批判した。

稲田氏は地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」の計画断念でミサイル防衛に穴があいてはならないとして「まず政府に代替策を出してほしい」と述べた。敵基地攻撃能力に関する自民党提言について「相手領域内でも阻止する能力を、憲法や国際法の範囲内で保有するとまとめた」と説明した。

斉藤氏は専守防衛の観点から敵基地攻撃能力の保有に否定的だった政府方針を挙げ「変えるなら国民に分かりやすい議論をしなくてはならない。公明党も考え方を議論している」と語った。

しんぶん赤旗 2020年8月10日(月)

### 敵基地攻撃能力の保有 憲法をじゅうりん NHK番組小池氏主張

日本共産党の小池晃書記局長は9日のNHK「日曜討論」で、敵基地攻撃能力の保有などを柱とする自民党提言を受け、政府が安全保障戦略の見直しに着手したことについて、「攻撃的兵器を保有することは、自衛のための最小限度の範囲を超え、いかなる場合も許されないとしてきた政府の憲法上の立場をじゅうりんすることになり、許されない」と批判しました。

小池氏は、米紙ウォール・ストリート・ジャーナルが「日本は軍事的先制攻撃オプションに踏み出す」と報じていることを紹介し、「国際的には先制攻撃とみなされている。果てしない大軍拡になり、軍事費もますます膨れ上がることになる」と強調しました。

提言を受けとった安倍晋三首相が「国の使命は国民の命と平和な暮らしを守り抜くことだ」と述べたことを指摘し、「ならば最優先で取り組むべきは新型コロナウイルス感染から国民の命を守ることであり、そのために予算を振り向けることだ」とのべ、

「憲法9条に基づく積極的な平和外交こそ日本の役割だ」と主張しました。

### ドローン飛行禁止、在日米軍施設を初めて指定 防衛省

朝日新聞デジタル 寺本大蔵 2020年8月8日 7時00分

防衛省は7日、改正ドローン規制法に基づき、小型無人機ドローンの飛行を原則禁止にする区域に、新たに在日米軍の15施設を含む計29施設を指定した。米軍施設の指定は初めて。1カ月の周知期間を経て、来月から原則、飛行禁止となる。

防衛省によると、岩国飛行場（山口県）や普天間飛行場（沖縄県）、横須賀海軍施設（神奈川県）など、在日米軍の主要15施設を飛行禁止区域に指定した。航空自衛隊三沢基地（青森県）など自衛隊の14施設も指定された。対象地域の敷地と周囲約300メートルの上空が飛行禁止になる。ただ、施設管理者の同意があれば飛行できる。

普天間飛行場の移設先として、政府が埋め立てを続ける沖縄県名護市辺野古のキャンプ・シュワブ沖も指定された。現場では市民団体がドローン撮影で環境汚染などがなく監視しており、「知る権利」が侵害される可能性もある。

河野太郎防衛相は7日の記者会見で「知る権利が大事なのはもちろんだが、自衛隊・米軍の運用、訓練に支障がないように、ドローンが昨今、テロなどに使われていることも考慮した」と述べた。

これに対し、沖縄県の玉城デニー知事はこの日の記者会見で「現在、沖縄にどれだけ駐留しているか具体的な数字すら米側から与えられていない。安定した日米同盟を進める上で、むしろ逆行している。ドローンの運用の規制は情報を遮断することになるとの懸念を持たれてもおかしくない」と指摘した。（寺本大蔵）

### 自衛隊、来春に電子戦部隊 航空機や地上装備開発も

2020/8/9 16:13 (JST)8/9 16:22 (JST)updated 共同通信社



東京・市谷の防衛省

防衛省・自衛隊は電波や赤外線を駆使して攻撃を防ぐ「電子戦」の体制強化に乗り出す。来春、陸自専門部隊を健軍駐屯地（熊本県）に新たに編成。侵攻勢力の電波を妨害し無力化できる航空機「スタンドオフ電子戦機」や地上配備装備の研究開発も推進する。中国やロシアの電子戦分野での能力向上をにらみ、現代戦対応を急ぐ。

例えば離島侵攻を受けた場合、相手方の陸海空の上陸部隊や艦艇が相互に通信しながら作戦遂行に当たるため、防御側にとって通信の傍受と妨害が有効な対抗策となる。

新編される専門部隊は離島奪還の専門部隊と連携。前線で自衛隊の通信を防護しつつ、敵のレーダーなどを妨害する。

### 自衛隊、来春に電子戦部隊 航空機や地上装備開発も

東京新聞 2020年8月9日 16時10分（共同通信）

防衛省・自衛隊は電波や赤外線を駆使して攻撃を防ぐ「電子戦」

の体制強化に乗りだす。来春、陸自専門部隊を健軍駐屯地（熊本県）に新たに編成。侵攻勢力の電波を妨害し無力化できる航空機「スタンドオフ電子戦機」や地上配備装備の研究開発も推進する。中国やロシアの電子戦分野での能力向上をにらみ、現代戦対応を急ぐ。

例えば離島侵攻を受けた場合、相手方の陸海空の上陸部隊や艦艇が相互に通信しながら作戦遂行に当たるため、防御側にとって通信の傍受と妨害が有効な対抗策となる。

新編される専門部隊は離島奪還の専門部隊と連携。前線で自衛隊の通信を防護しつつ、敵のレーダーなどを妨害する。

## 核兵器禁止条約 新たに1か国批准 発効まであと6か国

NHK2020年8月10日6時58分



「長崎原爆の日」の9日に合わせて、新たに1か国が核兵器禁止条約を批准し、これで条約の発効に必要な批准国はあと6か国となりました。

今回、新たに批准したのはカリブ海の島国、セントクリストファー・ネイビスです。

核兵器禁止条約は、核兵器を国際人道法の原則に反する兵器として開発から使用まで全面的に禁止するもので、3年前、国連で採択されました。

「広島原爆の日」の6日、アイルランドなど3か国が批准し、そして9日に、セントクリストファー・ネイビスが続いたことでその数は44となり、条約の発効まであと6か国となりました。アメリカの核の傘のもとにある日本は、厳しい安全保障環境を理由に条約には参加していません。

声明の中で、セントクリストファー・ネイビスのブラントリー外相は「長崎への原爆投下は残虐性と非人道性の極みだ。核兵器を持たない小さな国々が世界の平和に貢献している中で、核兵器に有用な目的を見いだせない。すべての国が人類のための平和と互いを尊重する世界に向けて取り組むことを願う」と発表しました。一方、国連のグテーレス事務総長は、9日の長崎の平和祈念式典に寄せたメッセージの中で「国際的な核軍縮体制の重要な一部となる核兵器禁止条約の発効を心待ちにしている」と述べており、国連としては条約の発効を核軍縮の機運を高めるきっかけにしたい考えです。

カナダ連邦議会議事堂では追悼の鐘を75回

また、「長崎原爆の日」に合わせて、カナダの首都オタワでは犠牲者を追悼するために連邦議会議事堂の鐘が鳴らされました。現地時間の9日午前、7分余りにわたって原爆投下からの年数と同じ75回鳴り響きました。

連邦議会議事堂では今月6日にも広島原爆が投下された時刻に合わせて犠牲者を追悼するための鐘が鳴らされました。

## 核兵器禁止条約「発効へ準備」 国連の中満氏が意欲

2020/8/8 22:09 (JST)8/8 22:17 (JST)updated 共同通信社



田上富久長崎市長と意見交換する国連軍縮担当上級代表の中満泉事務次長＝8日午後、長崎市

国連軍縮担当上級代表の中満泉事務次長が8日、長崎市内で報道陣の取材に応じ、核兵器禁止条約の発効に必要な国・地域が残り7となったことに関し「具体的な準備をしていく段階になった」と述べ、早期発効に意欲を示した。

条約発効には50カ国・地域の批准が必要だが、今月新たに3カ国が批准したことが明らかになり、43となった。

一方、中満氏は条約に参加していない日本政府に対し「少なくとも（核兵器廃絶の）目的は共有しているというメッセージを発信するのはどうか」と提案。「発効されれば、いろいろな議論が始まる。日本政府にもフォローしてもらい、議論を深めてもらいたい」と話した。

## 共産 志位委員長 「核兵器禁止条約に早期に署名・批准を」

NHK2020年8月9日18時04分



共産党の志位委員長は、日本は唯一の戦争被爆国であり、核廃絶に向けた取り組みの先頭に立つべきだとして、核兵器の開発や保有などを禁止する「核兵器禁止条約」に早期に署名・批准するよう政府に求める考えを強調しました。

共産党の志位委員長は9日、長崎市で開かれた平和祈念式典に出席したあと記者会見しました。

この中で志位氏は、政府の核廃絶に向けた取り組みについて、「『立場の異なる国々の橋渡しに努め、国際社会をリードする』と言うが、欺まんそのものだ。核兵器保有大国のお先棒を担いでいるのが実態にほかならない」と批判しました。

そのうえで、「日本は唯一の戦争被爆国として先頭に立つべきで、政府に対し、早期に『核兵器禁止条約』に署名・批准するよう強く求める」と述べました。

また志位氏は、広島でいわゆる「黒い雨」を浴びた住民が健康被害を訴えた裁判で、広島地方裁判所が全員を被爆者と認めた判決を評価したうえで、政府に対し控訴を断念するよう求めました。

## 「核廃絶は人類の約束」 被爆者に敬意の拍手—75回目、長崎原爆の日

時事通信2020年08月09日17時25分



平和祈念式典で飛び立つハト＝9日午前、長崎市（代表撮影）



長崎は9日、75回目の原爆の日を迎えた。爆心地に近い長崎市松山町の平和公園では、市主催の平和祈念式典が営まれ、被爆者や遺族、安倍晋三首相ら800人が参列。田上富久市長は平和宣言で、中距離核戦力（INF）全廃条約破棄など核保有国の核軍縮に逆行する動きに危機感を表明し、「今こそ核兵器廃絶は人類が自らに課した約束であることを思い出すべきだ」と訴えた。

式典には68カ国や国連、欧州連合（EU）の代表も参列。遺族らは7月末までの1年間に新たに死亡が確認された3406人の名簿を奉安し、参列者は原爆投下時刻の午前11時2分、鐘の音に合わせて1分間黙とうした。

田上市長は平和宣言で、核保有国による核軍縮の約束をほごにする動きや高性能核兵器の開発などにより「核兵器が使用される脅威が現実のものとなっている」と強調。来年開催予定の核拡散防止条約（NPT）再検討会議で、実効性のある核軍縮の道筋を示すよう求めた。

各国の指導者に対しては、「相互不信」ではなく、対話による「信頼」の構築を目指すよう要請。日本政府には、核兵器禁止条約の早期署名・批准を求めた。

また、体験を長年伝え続けた被爆者への敬意と感謝を表明するため、宣言で初めて参列者らに拍手が呼び掛けられた。

続いて、被爆者代表の深堀繁美さん（89）が「平和への誓い」を読み上げ。安倍首相はあいさつで「核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の努力を着実に前に進めていくことはわが国の変わらぬ使命だ」と述べたが、核兵器禁止条約には言及しなかった。

今年は新型コロナウイルス対策として、参列者数を例年の10分の1程度に縮小したほか、被爆者による合唱を取りやめた。小学生や高校生による合唱は、例年より人数を減らして行われた。

## 核廃絶の「当事者」は自分たち 原爆75年、長崎で式典 戦後75年特集

朝日新聞デジタル弓長理佳 2020年8月9日 21時22分



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念

式典で、平和公園から飛び立つハト=2020年8月9日午前11時14分、長崎市、代表撮影



長崎に原爆が投下されてから9日で75年の節目を迎えた。長崎市松山町の平和公園では、新型コロナウイルスの感染防止のため、規模を縮小して平和祈念式典が開かれた。田上富久市長は核兵器禁止条約に賛同しない日本政府に署名・批准を迫ったが、安倍晋三首相は昨年続き、あいさつで条約には触れなかった。

式典会場では、密集を避けるため、席数は2メートル間隔を空けて約500席に絞った。一般席も設けず、参加者の規模は例年の10分の1程度になった。式典冒頭の被爆者による合唱を取りやめ、平和公園への立ち入りも制限した。

田上市長は平和宣言で新型コロナに触れ、「自分の周囲で広がり始めるまで、その怖さに気づけなかったように、もし核兵器が使われてしまうまで、人類がその脅威に気づけなかったとしたら、取り返しがつかないことになる」。核禁条約には「一日も早い署名・批准を」と迫った。

平和への誓いは、14歳の時、学徒動員先の三菱長崎造船所で被爆し、家族4人を失った深堀繁美さん（89）。カトリック教徒で、昨年11月、爆心地公園を訪れたローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇に献花用の花輪を手渡した。

「被爆者が一人また一人といなくなる中であって、私は、『核兵器はなくさなければならぬ』との教皇のメッセージを糧に、『長崎を最後の被爆地に』との思いを訴え続けていく」と述べた。

安倍首相はあいさつで、「非核三原則を堅持しつつ、立場が異なる国々の橋渡しに努め、各国の対話や行動を粘り強く促す」と、広島での式典で述べた内容を繰り返した。

<視点>感染症と核兵器は重なる

4月上旬、臨時休館した長崎原爆資料館にこんな幕が掲げられた。「核兵器、環境問題、新型コロナウイルス…世界規模の問題に立ち向かう時に必要なこと その根っこは、同じだと思えます」。世界を襲うコロナ禍と、威力を増し続ける核兵器をともに人類が直面する危機と位置づけ、「自分が当事者」であることを促すメッセージだ。

目には見えないが、国を越え、分け隔てなく人の命を脅かす点で、感染症と核兵器は重なる。被爆者は75年前の長崎や広島で突然、その脅威にさらされた。

長崎の被爆者、石原照枝さん（84）=熊本市=は原爆で母を亡くした。自身も後遺症に苦しみながら、被爆体験を語り、「人間の尊厳を奪う兵器を二度と使わないで」と訴え続ける。

石原さんの背中を押すのは「原爆は決して過去のものではない」との思いだ。

私たちはどこかで、原爆は歴史上の出来事で、今後、核兵器が実際に使われることはないと考えていないだろうか。

75年がたち、被爆者の平均年齢は83・31歳になった。被爆者なきあとの核廃絶は、私たちが「当事者意識」を持てるかどうかにかかっている。（弓長理佳）

核禁条約批准を要望 被爆者団体、安倍首相に一長崎  
時事通信 2020年08月09日 16時13分



被爆者団体の代表と面談し、要望書を受け

取る安倍晋三首相（左）＝9日午後、長崎市（代表撮影）

長崎の被爆者5団体は9日、長崎市内のホテルで安倍晋三首相と面談し、核兵器禁止条約への署名・批准などを要望した。長崎県被爆者手帳友の会の朝長万左男会長（77）は「被爆者はわが国の核兵器禁止条約不参加に涙を流した」と述べ、政府に対して核兵器廃絶に向けた具体的な行動を起こすよう訴えた。

首相は核兵器禁止条約について、「アプローチは異なるものの、条約が目指す核兵器廃絶というゴールは共有している」と説明。「核軍縮の進展に向けた国際的議論を積極的にリードしていく」と述べた。

### 首相、長崎原爆資料館訪れず 被爆者憤り「機会があったはず」「当事者意識ない」

毎日新聞 2020年8月9日 20時32分(最終更新 8月9日 20時33分)



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典であいさつする

安倍晋三首相＝長崎市の平和公園で2020年8月9日午前11時28分、徳野仁子撮影

長崎の被爆者5団体は9日、長崎市で安倍晋三首相らと面談し、長崎原爆資料館を訪問するよう求めた。安倍首相はこの日も含め9回長崎に来たが、資料館を訪れたことはなく、5団体は初めて政府要望書に盛り込んだ。しかし、安倍首相からの回答はなかった。5団体は、核兵器禁止条約への署名・批准も要望したが、安倍首相は核保有国と非核国との「橋渡しに努める」と繰り返すだけだった。

安倍首相はこの日の平和祈念式典でも、広島と同様に核兵器禁止条約には言及せず「立場の異なる国々の橋渡しに努める」と述べるにとどまった。長崎の被爆者5団体は、被爆の実相を見なければ首相が主張する「橋渡し」はできないとして、長崎原爆資料館を訪問するよう求めた。

しかし、安倍首相はその要望に触れないまま「お時間となりました」と司会が言った後、席を立てて会場を後にした。例年ならば、会場を出る前に被爆者がいる方に歩み寄って言葉を交わしていたが、今年はそれもなかった。

安倍首相は面談で「核兵器使用の惨禍と非人道性を深く知る我が国」などと述べたが、長崎原爆被災者協議会の田中重光会長(79)は「長崎の原爆の実情を知らない。見に行く機会があったはず」と憤る。長崎県被爆者手帳友の会の朝長万左男会長(77)は「原爆に対する当事者意識がない」と突き放した。県平和運動センター被爆者連絡協議会の川野浩一議長(80)は「原爆がいかに悲惨

であるか、その目で見てほしかった」と唇をかんだ。【今野悠貴、飯田憲、松尾沙織】

しんぶん赤旗 2020年8月10日(月)

### 被爆者5団体 首相に迫る 長崎 核兵器禁止条約批准を



(写真) 安倍首相(手前左)に

要望書を手渡す被爆者団体の代表(右側の5氏)＝9日、長崎市(長崎市提供)

被爆75年の9日、長崎県内の五つの被爆者団体の代表は、長崎市内で安倍晋三首相と面談し、核兵器禁止条約の署名・批准や被爆体験者への制度の抜本的改善などの要望書を手渡しました。

代表してあいさつした県被爆者手帳友の会の朝長万左男会長(77)は、「被爆者はわが国の核兵器禁止条約不参加に涙した」と述べ、核兵器禁止条約を43カ国が批准していることにふれて具体的な行動を求めました。

要望書では、「核兵器や大量破壊兵器の所有は平和を絶えず試みにさらす」としたフランシスコ教皇の平和メッセージにもふれ、日本政府に対して「被爆国の責務として核兵器禁止条約に署名、批准し、核保有国と非核保有国の分断をつなぐ役割を果たしてください」と要請。「首相をはじめ、各国首脳に広島、長崎を訪問し、原爆資料館を自身の目で見て、感じて、考えてください」と求めました。

安倍首相は禁止条約について、核軍縮をめぐる国家間の隔たりを理由に「アプローチが異なる」として背を向けました。

面談後、長崎原爆被災者協議会の田中重光会長(79)は『橋渡し』というなら核兵器をなくす側に立って禁止条約に署名し、核保有国などに条約参加を迫るべきです」と指摘。「武器で平和はつくりえない。核兵器は新型コロナウイルスの感染防止に何の役にも立たない。核兵器に使うお金をコロナ対策に回すのが政治の責務だ」と語りました。

### 核兵器禁止条約 首相、支持せず

安倍晋三首相は9日、長崎市内で記者会見し、広島・長崎両市長から核兵器禁止条約の署名・批准を求められたことについて問われ、核保有国が参加していないことを理由に、同条約を支持しない立場を改めて表明しました。

安倍首相は同条約について、「核廃絶のゴールは共有している」としつつ、「安全保障の現実を踏まえることなく作成されたため、核兵器国は一国として参加していない。核の脅威にさらされている非核兵器国からも支持を得られていない」と述べました。

その上で、「核軍縮をめぐる国家間の立場の隔たりが拡大している」とし、「立場の異なる国々の『橋渡し』に努め、核軍縮に向けた努力を粘り強く促していく。核兵器禁止条約は、わが国のアプローチを異にしているものと言わざるを得ない」と従来の主張を繰り返しました。

さらに、国民の生命と財産を守り抜くためとして、「防衛力を強化するとともに、拡大抑止を含む日米同盟の抑止力を強化する」と強調し、「拡大抑止」＝米国の核の傘にしがみつ়姿勢を示し

ました。

## 首相 被爆者団体と面会 核廃絶への努力や被爆者支援の考え強調

NHK2020年8月9日 17時01分



「長崎原爆の日」の9日、安倍総理大臣は長崎市で被爆者団体の代表と面会し、核兵器の廃絶に向けて引き続き努力を重ねるとともに、被爆者への支援や、原爆の体験を伝える取り組みを進めていく考えを強調しました。

安倍総理大臣は平和祈念式典に出席したあと、長崎市内のホテルで加藤厚生労働大臣とともに、被爆者団体の代表らと面会しました。

そして、団体の代表は「核兵器禁止条約」の署名・批准を含め、日本政府が主導して、核兵器の廃絶に向けた取り組みを進めることや、広島で、いわゆる「黒い雨」を浴びた住民が健康被害を訴えた裁判で、広島地方裁判所が全員を被爆者と認めた判決について、広島県や広島市の要望を踏まえて対応することなどを求めました。

これに対し、安倍総理大臣は「核廃絶に向けて努力を重ねるとともに、被爆者への援護施策、原子爆弾の悲惨な経験を世代と国境を越えて伝えていくための取り組みを誠心誠意進めていく」と述べました。

また加藤厚生労働大臣は、判決への対応について、現在、広島県や広島市と協議しており、控訴期限の12日までに結論を出す考えを示しました。

このあとの記者会見で、安倍総理大臣は日本をめぐる安全保障環境は厳しさを増しており、防衛力に加え、日米同盟による抑止力も強化していく必要があると指摘したうえで『核兵器禁止条約』は、わが国の考え方とアプローチを異にしていると言わざるをえない。政府としては、立場の異なる国々の橋渡しに努め、核軍縮の進展に向けた国際的な議論に積極的に貢献していきたい」と述べました。

しんぶん赤旗 2020年8月10日(月)

## 核保有国は声を聴け 米国の会議 被団協・田中氏が訴え

【ワシントン＝池田晋】広島と長崎が被爆75年を迎える中、米国で核兵器の脅威をテーマにしたオンライン会議が8日、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の田中熙巳（たなか・てるみ）代表委員を招いて開かれました。田中氏は、被爆者と12カ国の支持を受けて核兵器禁止条約が2017年に採択されたことにふれ、「被爆75年の節目を迎える中、核保有国とその同盟国は世界の人々の声を聴くべきだ」と訴えました。

オンライン会議「広島・長崎—決して忘れない」は、核の脅威や放射能の影響について啓発・調査活動を行うワールドライフ研究所が主催しました。

田中氏は、13歳の時に長崎で「文字通り地獄」の被爆体験をしたことが50年以上に及ぶ反核運動の原動力になったと参加

者からの質問に回答。「核兵器をなくすため、みなさんと力を合わせたい」と運動への合流を呼び掛けました。

セントジョンフィッシャー大学のデビッド・ベル博士は、原爆を開発したマンハッタン計画によって「核の時代は、広島と長崎より前に、全米各地の施設で放射能汚染という人的被害とともに幕が開けた」と指摘。75年後の今も米陸軍による除染が国内10州で続き、住民の安全性に対する論争を生んでいると述べました。

リンダ・シャクア博士は、広島・長崎の原爆投下では、民間人の犠牲回避が全く考慮されておらず、今日の国際法下では違法に当たると話しました。

田中氏には主催者から、人類貢献賞が贈られました。

## 首相の被爆地あいさつ、文面酷似 広島と長崎、何のために来たのか

2020/8/9 23:22 (JST)共同通信社



「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」で、あいさつ

する安倍首相＝9日午前、長崎市の平和公園（代表撮影）

8月6日と9日に広島市、長崎市の両被爆地でそれぞれ開かれた平和式典での安倍晋三首相のあいさつの文面が酷似しているとして、被爆者から「何のために被爆地まで来たのか。ばかにしている」と怒りの声が上がった。

官邸のホームページに掲載された双方の全文を比較すると、両市の原爆投下からの復興を称賛した一文や、「広島」「長崎」といった地名などは異なるが、その他は段落数や構成、表現が同じ。結びの段落の言葉も「永遠の平和が祈られ続けている」「核兵器のない世界と恒久平和の実現に向けて力を尽くす」などと完全一致している

## 首相に憤る被爆者「何のため長崎に」 あいさつにも失望

朝日新聞デジタル新垣卓也、真野啓太、佐々木亮 2020年8月9日 20時45分



被爆者団体の代表らと面会し、長崎原爆遺族

会の本田魂会長（左から2人目）から要望書を受け取る安倍晋三首相＝2020年8月9日午後0時51分、長崎市、代表撮影



長崎の被爆者5団体の代表らが9日、長崎市内で安倍晋三首相らと面会した。この日の平和祈念式典のあいさつで安倍首相は「被爆者の方々と手を取り合って」「被爆者の方々に寄り添い」

と述べたが、昨年の面会で求めた長崎原爆資料館訪問は実現せず、被爆者が参加を求める核兵器禁止条約からも距離を置く。被爆者からは「政府の真剣さが感じられない」という声が漏れる。

式典後に面会し、5団体が政府への要望書を手渡した。政府側は、条約に参加する代わりに核兵器廃絶に向けて「立場の異なる国々の橋渡しに努め、国際的な議論を積極的にリードしていく」。国によって定められた長崎の被爆地域外にいたため被爆者と認められない「被爆体験者」についての救済について、最近の研究を踏まえた判断を求める被爆者側に対し、「(被爆地域外で)健康に問題のある量の放射線被曝(ひばく)があったという科学的知見は今のところない」などと、従来の見解を繰り返した。

長崎原爆被災者協議会の田中重光会長(79)は昨年、首相に原爆資料館訪問を求め、「被爆者からの宿題です」と訴えた。今年の要望書では「資料館を自身の目で見て、感じて、考えてください」との一文が盛り込まれたが、首相から具体的な回答はなかった。面会を終え、「寄り添うというなら、被爆者の言うことを聞いてほしい。何のために長崎に来るのか、その意味を考えてほしい」と憤った。

2017年の面会で核兵器禁止…

残り：449文字／全文：1035文字

## 「核廃絶は人類の約束」 被爆者に敬意の拍手—75回目、長崎原爆の日

時事通信 2020年08月09日 17時25分



平和祈念式典で飛び立つハト＝9日午前、

長崎市(代表撮影)



長崎は9日、75回目の原爆の日を迎えた。爆心地に近い長崎市松山町の平和公園では、市主催の平和祈念式典が営まれ、被爆者や遺族、安倍晋三首相ら800人が参列。田上富久市長は平和宣言で、中距離核戦力(INF)全廃条約破棄など核保有国の核軍縮に逆行する動きに危機感を表明し、「今こそ核兵器廃絶は人類が自らに課した約束であることを思い出すべきだ」と訴えた。

式典には68カ国や国連、欧州連合(EU)の代表も参列。遺族らは7月末までの1年間に新たに死亡が確認された3406人の名簿を奉安し、参列者は原爆投下時刻の午前11時2分、鐘の音に合わせて1分間黙とうした。

田上市長は平和宣言で、核保有国による核軍縮の約束をほごにする動きや高性能核兵器の開発などにより「核兵器が使用される脅威が現実のものとなっている」と強調。来年開催予定の核拡散防止条約(NPT)再検討会議で、実効性のある核軍縮の道筋を示すよう求めた。

各国の指導者に対しては、「相互不信」ではなく、対話による「信頼」の構築を目指すよう要請。日本政府には、核兵器禁止条

約の早期署名・批准を求めた。

また、体験を長年伝え続けた被爆者への敬意と感謝を表明するため、宣言で初めて参列者らに拍手が呼び掛けられた。

続いて、被爆者代表の深堀繁美さん(89)が「平和への誓い」を読み上げ。安倍首相はあいさつで「核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の努力を着実に前に進めていくことはわが国の変わらぬ使命だ」と述べたが、核兵器禁止条約には言及しなかった。

今年は新型コロナウイルス対策として、参列者数を例年の10分の1程度に縮小したほか、被爆者による合唱を取りやめた。小学生や高校生による合唱は、例年より人数を減らして行われた。

## 長崎原爆の日、首相「核兵器ない世界実現に努力」…被爆者団体の都道府県代表は19人

読売新聞 2020/08/09 18:38



遺族代表として献花する浦部豊子さん(左端)ら(9日午前10時54分、長崎市の平和公園で)＝秋月正樹撮影

長崎は9日、被爆75年の節目となる「長崎原爆の日」を迎えた。長崎市松山町の平和公園では長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われ、安倍首相や各国の代表らが参列した。参列者は原爆投下時刻の午前11時2分、「長崎の鐘」に合わせ、黙とうをささげた。



平和宣言を行う長崎市の田上市長(9日午前11時5分、長崎市の平和公園で)＝代表撮影

田上富久市長は「長崎平和宣言」で、「(原爆投下から)4分の3世紀がたった今も、私たちは『核兵器のある世界』に暮らしている」と危機感を表明し、核兵器廃絶の必要性を訴えた。

また、長年にわたり核兵器の恐ろしさを訴え続けてきた被爆者に感謝と敬意を表すよう呼びかけ、参列者が約10秒間拍手を送った。



新型コロナウイルス対策のため間隔

を空けて整列し、原爆投下時刻に合わせて黙とうする参列者(9日午前11時2分、長崎市の平和公園で)＝代表撮影

安倍首相はあいさつで「唯一の戦争被爆国として『核兵器のない世界』の実現に向けた国際社会の努力を一步一步、着実に前に進めていくことは、我が国の変わらぬ使命だ」と述べた。

新型コロナウイルスの影響で、式典会場では参列者を例年の10分の1の500人に制限するなどの対策が取られた。

原爆投下から75年の節目となる「長崎原爆の日」を迎えた9日、長崎市松山町の平和公園で、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が開かれた。新型コロナウイルスの影響で規模が縮小され、参列した被爆者や遺族ら約500人が犠牲者に黙とうをささげた。

田上富久・長崎市長は平和宣言で「(原爆投下から)4分の3世紀がたった今も、私たちは『核兵器のある世界』に暮らしている。新型コロナが広がり始めるまで怖さに気づかなかつたように、核兵器が使われてしまうまで脅威に気づかなかつたとしたら、取り返しのつかないことになる」と強調。各国が対話を通して実効性のある核軍縮の道筋を示すよう訴えた。

安倍首相はあいさつで「唯一の戦争被爆国として、『核兵器のない世界』の実現に向けた国際社会の努力を一步一步、着実に前に進めていくことは、我が国の変わらぬ使命だ」と述べた。

会場は感染防止を目的に入場が規制され、参列者は例年の約5000人から約500人に制限された。被爆者団体の都道府県代表も過去最少の19人となった。

## コロナも核兵器もみんなが当事者 長崎市長あいさつ全文

朝日新聞デジタル 2020年8月9日 12時02分



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で「長崎平和宣言」を読み上げる長崎市の田上富久市長=2020年8月9日午前11時5分、長崎市の平和公園、代表撮影



私たちのまちに原子爆弾が襲いかかったあの日から、ちょうど75年。4分の3世紀がたった今も、私たちは「核兵器のある世界」に暮らしています。

どうして私たち人間は、核兵器を未(いま)だになくすことができないのでしょうか。人の命を無残に奪い、人間らしく死ぬことも許さず、放射能による苦しみを一生背負わせ続ける、このむごい兵器を捨て去ることができないのでしょうか。

75年前の8月9日、原爆によって妻子を亡くし、その悲しみと平和への思いを音楽を通じて伝え続けた作曲家・木野普見雄さんは、手記にこう綴(つづ)っています。

私の胸深く刻みつけられたあの日の子雲の赤黒い軌(ひろ)がりの下に練り展(ひろ)げられた惨劇、ペロペロに焼けただれた火達磨(ひだるま)の形相や、炭素のように黒焦げとなり、丸太のようにゴロゴロと瓦礫(がれき)の中に転がっていた数知れぬ屍体(したい)、髪はじりじりに焼け、うつろな瞳でさまよう女(ひと)、そうした様々な幻影は、毎年めぐりくる八月九日もなれば生々しく脳裡(のうり)に蘇(よみがえ)ってくる。

被爆者は、この地獄のような体験を、二度とほかの誰にもさせてはならないと、必死で原子雲の下で何があったのかを伝えてきました。しかし、核兵器の本当の恐ろしさはまだ十分に世界に伝わってはいません。新型コロナウイルス感染症が自分の周囲で広がり始めるまで、私たちがその怖さに気づかなかつたように、もし核兵器が使われてしまうまで、人類がその脅威に気づかなかつたとしたら、取り返しのつかないことになってしまいます。

今年は、核不拡散条約(NPT)の発効から50年の節目にあたります。

この条約は、「核保有国をこれ以上増やさないこと」「核軍縮に誠実に努力すること」を約束した、人類にとってとても大切な取り決めです。しかしここ数年、中距離核戦力(INF)全廃条約を破棄してしまうなど、核保有国の間に核軍縮のための約束を反故(ほご)にする動きが強まっています。それだけでなく、新しい高性能の核兵器や、使いやすい小型核兵器の開発と配備も進められています。その結果、核兵器が使用される脅威が現実のものとなっているのです。

“残り100秒”。地球滅亡までの時間を示す「終末時計」が今年、これまでで最短の時間を指していることが、こうした危機を象徴しています。

3年前に国連で採択された核兵器禁止条約は「核兵器をなくすべきだ」という人類の意思を明確にした条約です。核保有国や核の傘の下にいる国々の中には、この条約をつくるのはまだ早すぎるという声があります。そうではありません。核軍縮があまりにも遅すぎるのです。

被爆から75年、国連創設から75年という節目を迎えた今こそ、核兵器廃絶は、人類が自らに課した約束“国連総会決議第一号”であることを、私たちは思い出すべきです。

昨年、長崎を訪問されたローマ教皇は、二つの“鍵”となる言葉を述べられました。一つは「核兵器から解放された平和な世界を実現するためには、すべての人の参加が必要です」という言葉。もう一つは「今、拡大しつつある相互不信の流れを壊さなくてはなりません」という言葉です。

世界の皆さんに呼びかけます。

平和のために私たちが参加する方法は無数にあります。

今年、新型コロナウイルスに挑み続ける医療関係者に、多くの人が拍手を送りました。被爆から75年がたつ今日まで、体と心の痛みを耐えながら、つらい体験を語り、世界の人たちのために警告を発し続けてきた被爆者に、同じように、心からの敬意と感謝を込めて拍手を送りましょう。

この拍手を送るとい、わずかに10秒ほどの行為によっても平和の輪は広がります。今日、大テントの中に掲げられている高校生たちの書にも、平和への願いが表現されています。折り鶴を折るとい、小さな行為で、平和への思いを伝えることもできます。確信を持って、たゆむことなく、「平和の文化」を市民社会に根づかせていきましょう。

若い世代の皆さん。新型コロナウイルス感染症、地球温暖化、核兵器の問題に共通するのは、地球に住む私たちみんなが“当事者”だということです。あなたが住む未来の地球に核兵器は必要ですか。核兵器のない世界へと続く道を共に切り開き、そして一緒に歩いていきましょう。

世界各国の指導者に訴えます。

「相互不信」の流れを壊し、対話による「信頼」の構築をめざしてください。今こそ、「分断」ではなく「連帯」に向けた行動を選択してください。来年開かれる予定のNPT再検討会議で、核超大国である米国の核兵器削減など、実効性のある核軍縮の道筋を示すことを求めます。

日本政府と国会議員に訴えます。

核兵器の怖さを体験した国として、一日も早く核兵器禁止条約の署名・批准を実現するとともに、北東アジア非核兵器地帯の構築を検討してください。「戦争をしない」という決意を込めた日本国憲法の平和の理念を永久に堅持してください。

そして、今なお原爆の後障害に苦しむ被爆者のさらなる援護の充実とともに、未だ被爆者と認められていない被爆体験者に対する救済を求めます。

東日本大震災から9年が経過しました。長崎は放射能の脅威を体験したまちとして、復興に向け奮闘されている福島の方々に応援します。

新型コロナウイルスのために、心ならずも今日この式典に参列できなかった皆様とともに、原子爆弾で亡くなられた方々に心から追悼の意を捧げ、長崎は、広島、沖縄、そして戦争で多くの命を失った体験を持つまちや平和を求めるすべての人々と連帯して、核兵器廃絶と恒久平和の実現に力を尽くし続けることを、ここに宣言します。

2020年(令和2年)8月9日

長崎市長 田上富久

### 「すべての人の参加を」 核廃絶に連帯呼び掛け—被爆者代表・深堀繁美さん

時事通信 2020年08月09日 13時39分



「平和への誓い」を述べる被爆者代表の深堀繁美さん＝9日午前、長崎市(代表撮影)

「平和な世界を実現するには、すべての人の参加が必要だ」。長崎市の平和祈念式典で「平和への誓い」を読み上げた被爆者でカトリック信徒の深堀繁美さん(89)は、2019年11月に長崎を訪問したフランシスコ教皇の言葉を引用し、核兵器廃絶に向けて連帯するよう呼び掛けた。

深堀さんは14歳の時、爆心地から3.4キロの長崎市飽の浦町の造船所で被爆した。魚雷発射管を製造する作業中、突然強い光と大きな音を感じ、工場内のトンネルに逃げ込んだ。翌日、歩いて家に帰る途中、真っ黒になった人が川の中で折り重なって死んでいるのが見えた。ごろごろと転がる死体や、水を求める人々の声を今でも覚えている。実家は爆風で破壊され、2人の姉、弟と妹を亡くしたが、多くの死体を見たためか涙も出なかった。「このような思いは、もう二度とどこの誰にもしてほしくない」と声を振り絞った。

被爆地の惨状は「見た人でなければ分からない」と語る。「原爆のことを言葉で言い表すことはできない」と思い、子にも多くを語ってこなかった。

転機となったのは、スペイン・ゲルニカへの訪問。ナチス・ドイツの無差別爆撃を受けた市民が当時の体験を語り継ぐ様子を見て、深堀さんも自らの体験を後世に伝えていかなければならないと感じた。以来約10年にわたり、修学旅行生らに被爆体験を語り続けてきた。

誓いには「核兵器を廃絶し、平和な世の中をつくらせてくれるよう若い人たちに託したい」との思いを込めた。「一人ひとりの祈りは小さい。しかしそれが広がって大きくなれば、平和が訪れる」と信じている。世界では今も争いが絶えない。「指導者に(平和への)思いをくみ取ってほしい」と願い、「長崎を最後の被爆地に」と世界中に訴えた。

### 「この思いを誰にもさせたくない」 深堀繁美さん“平和のバトン” 誓いで若い世代に

毎日新聞 2020年8月9日 19時10分(最終更新 8月9日 19時10分)



平和祈念式典で「平和への誓い」を読み上げる深堀繁美さん＝長崎市の平和公園で2020年8月9日午前11時16分、徳野仁子撮影

「この思いを誰にもさせたくない」 深堀繁美さん“平和のバトン” 誓いで若い世代に

「平和な世界を実現するには、すべての人の参加が必要」。被爆者代表で「平和への誓い」を読み上げたカトリック教徒の深堀繁美(ふかほりしげみ)さん(89)は、2019年11月に長崎市を訪れたフランシスコ・ローマ教皇の呼びかけを“平和のバトン”と表現し、若い世代に託した。

神学校にいた14歳の時、駆り出されていた同市飽(あく)の浦(うら)町の三菱長崎造船所(爆心地から3.4キロ)で被爆した。爆心地近くの自宅に向かう途中、真っ黒になった人の山が川を埋め尽くす光景を目にした。きょうだい4人も失った。「あの恐ろしさは体験した者でなければ分からない」。原爆の惨禍を言葉で伝えることの難しさを、度々口にする。

深堀さんは被爆の記憶を継承するため、原爆で瓦解(がかい)した旧浦上天主堂から発見された“被爆マリア像”の公開に尽力した。「像は身をもって戦争の悲惨さを伝えている」との思いから、像を安置する「被爆マリア小聖堂」の設置を推進。05年、聖堂は浦上天主堂南側に完成した。11年には外務省の「非核特使」としてスイス・ジュネーブの国連欧州本部を訪問し、被爆体験を講演して世界に原爆の非人道性を訴えた。

原爆で、当時の浦上のカトリック信徒約1万2000人のうち約8500人が死亡したとされる。犠牲者の安息と世界平和を願い、被爆マリア小聖堂で毎日礼拝している深堀さんは「もう二度と、自分たちのような思いを誰にもさせたくない」と、9日も祈りをささげた。【中山敦貴】

## 川に真っ黒な人、「水…水…」 被爆者代表あいさつ全文

朝日新聞デジタル 2020年8月9日 12時16分



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で「平和への誓い」を読み上げる深堀繁美さん=2020年8月9日午前11時16分、長崎市の平和公園、代表撮影



被爆者代表・深堀繁美さん

原爆が投下された1945年、旧制中学3年生だった私は、神父になるため親元を離れ、大浦天主堂の隣にあった羅典（らてん）神学校で生活をしていました。中学校の授業はなく、勤労学生として飽の浦町の三菱長崎造船所で働く毎日でした。

8月9日、仲間とともに工場で作業をしていた時、突然強い光が見え、大きな音が聞こえました。近くに爆弾が落ちたと思い、とっさに床に伏せましたが、天井から割れた瓦が落ちてきたので、工場内にあるトンネルに逃げ込みました。夕方になり、トンネルを出て神学校に帰りました。夜遅くには浦上で働いていた5人の先輩が帰ってきましたが、一日もたらずに全員が亡くなりました。

翌10日の昼には、浦上の実家へ戻ることを許されたので、歩いて帰ることにしました。途中には、車輪だけとなった電車や白骨が転がっており、川には真っ黒になった人が折り重なっていました。生きているのか死んでいるのかもわかりません。時々「水……、水……」という声が聞こえますが、助けることはできません。浦上天主堂は大きく崩れ、その裏手にあった実家も爆風で壊れていました。父は防空壕（ごう）の中の兵器工場に働いていたので助かりましたが、姉2人と弟と妹は亡くなっていました。しかし、たくさんの死体を見てきたためか、不思議と涙も出ません。今思えば、普通の精神状態ではなかったのだと思います。

まちには亡くなった人を焼くにおいが、しばらく立ち込めていました。何のけがもない人が次々に亡くなっていく現実を目の当たりにすると、次は自分が死んでしまうのではないかという恐怖感が、なかなか振り払えなかったことを覚えています。このような思いは、もう二度とどこの誰にもしてほしくないと思います。

昨年11月、「平和の使者」として、フランシスコ教皇が長崎を訪問されました。最初の訪問地、爆心地公園に足を運んだ教皇とともに原爆犠牲者に献花した、あの時の場面が蘇（よみがえ）ります。そして、39年前に広島でヨハネ・パウロ二世教皇の「戦争は人間のしわざです」との印象深い言葉を、より具体化し、核兵器廃絶に踏み込んだフランシスコ教皇の言葉に、どんなにか勇気づけられたことでしょうか。さらに、「長崎は核攻撃が人道にも環境上も壊滅的な結末をもたらすことの証人である町」とし、まさ

に私たち長崎の被爆者の使命の大きさを感ずる言葉をいただきました。

また、「平和な世界を実現するには、すべての人の参加が必要」との教皇の呼びかけに呼応し、一人でも多くの皆さんがつながってくれることを願ってやみません。特に若い人たちには、この平和のバトンをしっかりと受け取り、走り続けていただくことをお願いしたいと思います。

私は89歳を過ぎました。被爆者には、もう限られた時間しかありません。今年、被爆から75年が経過し、被爆者が一人また一人といなくなる中であって、私は、「核兵器はなくさなければならぬ」との教皇のメッセージを糧に、「長崎を最後の被爆地に」との思いを訴え続けていくことを決意し、「平和への誓い」といたします。

2020年（令和2年）8月9日

被爆者代表 深堀繁美

## 核兵器のない世界へ、対話や行動促す 首相あいさつ全文

朝日新聞デジタル 2020年8月9日 12時47分



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典であいさつ

する安倍晋三首相=2020年8月9日午前11時28分、長崎市の平和公園、代表撮影

本日ここに、被爆75周年の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に当たり、原子爆弾の犠牲となられた数多くの方々の御霊（みたま）に対し、謹んで、哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお被爆の後遺症に苦しめられている方々に、心からお見舞いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が世界を覆った今年、世界中の人々がこの試練に打ち勝つため、今まさに奮闘を続けています。

75年前の今日、一木（いちぼく）一草（いっそう）もない焦土と化したこの街が、市民の皆様のご努力によりこのように美しく復興を遂げたことに、私たちは改めて、乗り越えられない試練はないこと、そして、平和の尊さを強く感じる次第です。

長崎と広島で起きた惨禍、それによってもたらされた人々の苦しみは、二度と繰り返してはなりません。唯一の戦争被爆国として、「核兵器のない世界」の実現に向けた国際社会の努力を一步一步、着実に前に進めていくことは、我が国の変わらぬ使命です。

現在のように、厳しい安全保障環境や、核軍縮をめぐる国家間の立場の隔りがある中では、各国が相互の関与や対話を通じて不信感を取り除き、共通の基盤の形成に向けた努力を重ねることが必要です。

特に本年は、被爆75年という節目の年であります。我が国は、非核三原則を堅持しつつ、立場の異なる国々の橋渡しに努め、各国の対話や行動を粘り強く促すことによって、核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の取り組みをリードしてまいります。

本年、核兵器不拡散条約（NPT）が発効50周年を迎えました。

同条約が国際的な核軍縮・不拡散体制を支える役割を果たし続けるためには、来たるべき NPT 運用検討会議を有意義な成果を収めるものとするのが重要です。我が国は、結束した取り組みの継続を各国に働きかけ、核軍縮に関する「賢人会議」の議論の成果も活用しながら、引き続き、積極的に貢献してまいります。

「核兵器のない世界」の実現に向けた確固たる歩みを支えるのは、世代や国境を越えて核兵器使用の惨禍やその非人道性を語り伝え、承継する取り組みです。我が国は、被爆者の方々と手を取り合って、被爆の実相への理解を促す努力を重ねてまいります。

被爆者の方々に對しましては、保健、医療、福祉にわたる支援の必要性をしっかりと受け止め、原爆症の認定について、できる限り迅速な審査を行うなど、高齢化が進む被爆者の方々に寄り添いながら、今後とも、総合的な援護施策を推進してまいります。

結びに、永遠の平和が祈られ続けている、ここ長崎市において、核兵器のない世界と恒久平和の実現に向けて力を尽くすことをお誓い申し上げます。原子爆弾の犠牲となられた方々のご冥福と、ご遺族、被爆者の皆様、並びに、参列者、長崎市民の皆様のご平安を祈念いたしまして、私のあいさつといたします。

令和2年8月9日

内閣総理大臣 安倍晋三

しんぶん赤旗 2020年8月10日(月)

## 核兵器禁止条約に参加する新しい政府を——「橋渡し」論は欺瞞 長崎で志位委員長が会見

日本共産党の志位和夫委員長は9日、長崎市民会館で記者会見し、広島・長崎の被爆75周年にあたって、「核兵器のない世界」にむけて、核兵器禁止条約に参加する新しい政府をつくる決意を表明しました。また「黒い雨」訴訟にかかわって、政府は控訴を断念し、速やかに被爆者を救済するよう重ねて求めました。志位氏の見解を紹介します。

核兵器禁止条約に対する日本政府の姿勢が厳しく問われる

広島・長崎の被爆75周年の今年、「核兵器のない世界」にむけてどうやって進むかが大きな焦点となっています。核兵器禁止条約に43カ国が批准、発効まであと7カ国とカウントダウンになるも、日本政府の姿勢が厳しく問われています。

安倍首相は、広島と長崎の平和式典でのあいさつで、核兵器禁止条約について一切ふれませんでした。繰り返したのは、「立場の異なる国々の橋渡しに努め、核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の取組をリード」するということでした。

「橋渡し」という言葉を繰り返しているわけですが、日本政府の唱える「橋渡し」論は、まったくの欺瞞(ぎまん)ということを指摘しなければなりません。

「橋渡し」でなく、核保有大国の「お先棒担ぎ」がその実態

第一に、そもそも日本政府は、「核兵器のない世界」という言葉を口先では言いますが、それを実現する立場にたっていません。

日本政府が「橋渡し」論の実践として、国連総会に提出している核兵器問題の決議(「核兵器のない世界に向けた共同行動の指針と未来志向の対話」)では、核兵器廃絶を「究極目標」と位置づけ、永遠の将来に先送りにする立場をあからさまにのべています。

さらに、日本政府は、核兵器禁止条約への参加は「核抑止力の

正当性を損なう」と繰り返し、核保有国がよりどころとする「核抑止力」論にしがみついています。

日本政府の立場は、核兵器廃絶でなく核兵器固執にほかなりません。こういう政府が、「唯一の戦争被爆国」の政府を看板にして、「橋渡し」を説くのは欺瞞そのものといわなければなりません。核兵器保有大国の「お先棒担ぎ」がその実態にほかなりません。

核兵器廃絶か、核兵器固執かの対決——「橋渡し」論は国際的にすでに破たん

第二に、そもそも核兵器をめぐる国際政治の構図は、核兵器廃絶か、核兵器固執かの対決となっています。この両者は立場を百八十度異にしており、その間に、「橋渡し」をすることなどできません。

それを証明しているのが、日本政府が「橋渡し」論の実践として、国連総会に提出した決議がどうなっているかです。この決議は、「核兵器のない世界」をうたいながら、核兵器禁止条約に一切言及していません。核兵器廃絶を「究極目標」として、永遠の将来に先送りし、核戦力の維持・強化をはかる核兵器保有大国の意向にそったものとなっています。

日本政府提案の決議は、核兵器禁止条約の先頭にたってきた国々から厳しい批判をあびました。他方、米国は棄権、中ロは反対しました。「橋渡し」といいますが、「橋」の両端が落ちてしまったのです。「橋渡し」論は、国際的にはすでに破たんしたものにほかなりません。

いま大切なことは、諸政府と市民社会の共同で、核固執勢力を包囲すること

今求められているのは、世界の多数の国々の政府と、草の根の市民社会が力をあわせて、核兵器固執勢力を包囲し、その政策を変更させることにあります。

核兵器をめぐる情勢は、表面だけを見れば核保有大国による新たな核軍拡競争など厳しい状況もありますが、大局で捉えるならば、核兵器禁止条約の成立など、核兵器廃絶の勢力が、核兵器固執勢力を追い詰めるプロセスが力強く前進しつつあります。

核兵器禁止条約を発効させるとともに、来年1月に予定されるNPT(核不拡散条約)再検討会議でも「核兵器のない世界」に向けた前進をつくっていくために、世界の多くの諸政府と市民社会の連帯を大いに強めていきたいと決意しています。

唯一の戦争被爆国・日本の政府は「核兵器のない世界」をめざす取り組みの先頭にたつべきです。

その意思も能力もない安倍首相に被爆国の政府をあずかる資格はありません。

市民と野党の共闘の力で、安倍政権を終わらせ、核兵器禁止条約に参加する新しい政府をつくるために全力をあげてたたかうことを、被爆75周年にあたって表明するものです。

## 原水禁長崎大会、オンライン開催 「日本、核兵器廃絶の先頭に」

2020/8/9 17:23 (JST)共同通信社



オンラインで開かれた原水協系の原水

爆禁止世界大会で、発言する参加者=9日

長崎に原爆が投下された日に合わせ、原水爆禁止日本協議会（原水協）系と原水爆禁止日本国会議（原水禁）系の二つの原水爆禁止世界大会が9日、新型コロナウイルス感染拡大のためオンラインで開催された。核兵器禁止条約への参加など、日本政府に核兵器廃絶の動きの先頭に立つよう求め、広島、長崎の大会は閉幕した。

原水協系の大会では、富田宏治・関西学院大教授が核禁止条約の発効に必要な国・地域が残り7となったことに触れ「速やかに参加し、核廃絶運動の先頭に立って」と話した。

原水禁系の大会では川野浩一議長が「わが国の出番。まずは核禁止条約への参加を」と訴えた。



オンラインで開かれた原水禁系の原水

爆禁止世界大会で、あいさつする川野浩一議長=9日午後

原水協の世界大会閉幕 「核、なお全人類にとって脅威」

朝日新聞デジタル黒田壮吉 2020年8月9日 16時41分

原水爆禁止日本協議会（原水協）による原水爆禁止世界大会が9日、閉幕した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で全ての日程をオンラインで実施。この日は、世界各国の政府に向けた手紙を発表し、核保有国に核戦力の増強をはかる動きもあるとして、「核兵器はいまなお全人類にとって脅威だ」と指摘。日本を含めた各国に核兵器禁止条約の批准を求めた。

原水爆禁止日本国会議（原水禁）も同日、オンラインで世界大会を開いた。2011年の東京電力福島第一原発事故でいまだに多くの人が避難を強いられていることなどを挙げ、「核と人類は共存できない」と訴える宣言を採択した。原水禁は12日に福島大会を開き、閉幕する。（黒田壮吉）

しんぶん赤旗 2020年8月10日(月)

核兵器禁止条約発効へうねりを 原水爆禁止2020年長崎デー  
ー 国際共同行動の発展呼びかけ

長崎市は9日、原爆投下から75回目の原爆の日を迎えました。長崎市主催の平和式典で田上富久市長は「長崎平和宣言」で、核兵器廃絶は国連第1号決議だと強調し、日本はじめ各国政府に核兵器禁止条約への参加を訴えました。日本共産党の志位和夫委員長が献花しました。原水爆禁止2020年世界大会長崎デーが同日開かれ、禁止条約の発効に向けて自国政府に参加を迫る共同行動の発展を呼びかけました。



(写真) オンライン

で開催された原水爆禁止2020年世界大会長崎デー=9日

「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と

地球の未来のために」をテーマに開かれた、原水爆禁止2020年世界大会・長崎デーは、「長崎からすべての国の政府への手紙」を発表し、「核兵器禁止条約への署名と批准をすみやかに行うこと」などを求めました。

政府代表として、延期された核不拡散条約（NPT）再検討会議の軍縮委員会委員長となるマレーシア国連大使のサイド・モハマド・ハスリン氏、核兵器禁止条約の採択に尽力したメキシコからメルバ・プリーア駐日大使が参加し、「核兵器が存在し続けることは、人類に対する重大な脅威。唯一の解決は廃絶しかない」（サイド氏）と強調しました。

第1セッション「核兵器のない世界への行動」では、国際平和ビューロー（IPB）共同会長のフィリップ・ジェニングズ氏、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）のカルロス・ウマーニャ副会長らが、コロナ感染を経て「人間を中心とした政治、経済、社会に変えよう」（フィリップ氏）、「核戦争になれば復興など不可能。唯一の道は核兵器の全面廃絶」（カルロス氏）と語りました。

環境活動家の武本匡弘さんも、気候危機の原因の一つは、環境破壊の軍事行動にあると指摘し、地球環境保護と核兵器廃絶運動の連帯を呼びかけました。

第2セッション「日本と世界、草の根の交流」では、韓国・平和と統一を目指す人々（SPARK）のキム・イナさん、フランス平和運動のロラン・ニベ全国書記が、核兵器禁止条約参加を政府に迫る運動を報告。「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会の田中重光共同代表が、県民過半数まで1万5000人に迫っていると報告しました。

6日から9日まで行われた国際共同行動「平和の波」について報告した原水爆禁止日本協議会の安井正和事務局長は、「連帯を強め、すべての国に核兵器禁止条約への参加を迫ろう」と訴えました。

「首相は『橋渡し』と言うが何もしない」 核兵器禁止条約署名  
せぬ政府に被爆者抗議

毎日新聞 2020年8月9日 17時12分(最終更新 8月9日 21時33分)



核兵器廃絶を訴える座り込みに参加

し原爆投下時刻の午前11時2分に合わせて黙とうする被爆者たち=2020年8月9日午前11時2分、樋口岳大撮影

米軍が長崎に原爆を投下してから75年となる9日、原水爆禁止長崎県民会議は長崎市の爆心地公園で核兵器廃絶を訴えて座り込みをし、約150人が参加した。被爆者たちは、日本政府が核兵器禁止条約に賛同せず、長崎を訪問した安倍晋三首相が長崎原爆資料館を今年も訪問しなかったことに怒りの声を上げた。

長崎の被爆者団体は、日本政府が核兵器禁止条約に署名・批准するよう繰り返し求めているが、政府は米国の核の傘に依存していることを理由に賛同していない。安倍首相はこの日の平和祈念

式典でのあいさつでも核兵器禁止条約については触れず、「(核兵器の保有の有無などで) 立場の異なる国々の橋渡しに努める」との従来の考えを述べただけだった。

長崎で被爆した原水爆禁止日本国民会議の川野浩一議長(80)は「75年、核廃絶はなんでできないのか。首相は『橋渡しをする』と言うが何もしない。『米国の核の傘の下でぬくぬくと住んでいけばいい』という考えだ」と批判。参加者は原爆投下時刻の午前11時2分に合わせて黙とうした。

長崎の被爆者5団体は1年前の原爆の日に長崎で安倍首相と面会した際、長崎原爆資料館に展示されている黒焦げになった少年の写真を見せて同館を訪問するよう強く要請したが、この日も安倍首相は同館を訪問しなかった。川野さんは「長崎の被爆者として怒りを覚える。いかに悲惨であるか、その目で見てほしい」と訴えた。【樋口岳大】

### 戦争のない被爆100年を目指して 被爆3世、国際署名リーダー 林田光弘さん

東京新聞 2020年8月9日 06時00分

長崎は9日、被爆75年を迎える。被爆者の平均年齢が83歳を超え、新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない世界で、若い世代は核廃絶への思いをどのように受け継いでいくのか。長崎市出身の被爆3世で、ヒバクシャ国際署名のキャンペーンリーダーを務める林田光弘さん(28)に聞いた。(木谷孝洋)

ヒバクシャ国際署名 2015年の核拡散防止条約(NPT)再検討会議が、核保有国と非保有国との対立で決裂し、危機感を持った被爆者団体が翌16年から始めた署名活動。核兵器のない世界の実現を目指し、全ての国に核兵器禁止条約への参加を求めている。今年3月末で約1184万筆が集まった。9月18日までの署名期間終了後、国連総会に提出する。

一署名活動に関わったきっかけは、

「安全保障関連法に抗議する学生団体、SEALDs(シールズ)の1員として活動していた2015年の年末に日本原水爆被害者団体協議会(被団協)から声をかけられてリーダーになった。シールズのように世代や党派を超えたムーブメントを核廃絶でも起こせたらと思って。署名活動という古くさいツールをどう活用できるか、やりがいも感じた。被爆者も高齢となり、大きな運動を起こすのは最後になるかもしれないという思いもあった」

一被爆者の高齢化が進む中、被爆の実相をどう伝えていくべきか。

「原爆の被害はあまりにも悲惨なので、広島と長崎の被害は一緒くたに語られがちだ。でも、当然ながら地形も文化的な背景も違うし、被爆者が被爆の現実はどう向き合ってきたのかも違う。それぞれが違うということを認識し、伝えていけば、自分の地元が『第三の被爆地』になったらどうなるかと考えることにつながる。ローカライズ(現地化)することで核兵器の悲惨さのリアリティーが見えてくると思う」

一新型コロナウイルスの感染拡大で被爆者の活動も制限されている。

「今年は全国各地で小さな証言会を開いて、参加者と被爆者が名前と呼び合える関係をつくっていこうと計画していた。新型コロナウイルスの影響でそれができなくなった。代替としてオンラインでの証言会をやったが、収穫もあった」

一どんな収穫か。

「一つは若い人の参加のハードルが下がったこと。高校生や大学生が30人から50人ほど参加してくれたが、通常の証言会ではなかったことだ。もう一つは、活発な質疑応答ができた点だ。北海道から沖縄までの若者が被爆者の話を聞いた上で議論することは貴重な学びの場になったと感じた」

核廃絶を願って若者らが参加する平和活動

一被爆者の活動は引き継げるか。

「被爆者の人たちと同じことをやるのは不可能だと思う。私たちがどれだけ勉強しても、あの日の感覚は肌では分からない。それでも、平和に関心があり、戦争経験者の声をつないでいこうとする若者は増えていると感じる」

一活動を続けてきて、思うことはあるか。

「私は最近、被爆100年をどう迎えるのかということを考えている。これからの25年を日本は戦争をせずに過ごし、被爆100年を戦後100年で迎えるということが、被爆者に贈れる最大の感謝ではないか。被爆者がいなくなる戦後100年を考えたときに、当事者意識を持って活動する人を全国に何人つくれるかがすごく大事なことだと思う」

はやしだ・みつひろ 1992年、長崎市出身。爆心地に近い同市浦上地区で育ち、高校生1万人署名や高校生平和大使の活動に参加する。明治学院大に在学中、SEALDs(シールズ、自由と民主主義のための学生緊急行動)の創設に参加し、中心メンバーとして活動。現在は会社務めの傍ら、被爆者の証言会などを続けている。

### 3年前「どこの国の総理ですか」 安倍首相に80歳被爆者「私たちに後がない」<長崎原爆の日>

東京新聞 2020年8月10日 05時50分

安倍晋三首相は9日、長崎市平和祈念式典でのあいさつや被爆者代表との面会で、核兵器禁止条約に批判的な姿勢を取り続けた。3年前の同じ面会の場で、一人の男性被爆者が「あなたはどこの国の総理ですか」と、核禁条約参加を直接求めた。今年の面会にも出席したが「今回も同じことの繰り返しだった。私たちに後がないんだ」と、参加を拒み続ける首相の姿勢に憤りを隠さない。(柚木まり)

男性は、長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会の川野浩一議長(80)。

2017年8月9日の首相と被爆者代表の面会で、核禁条約への署名などを求める要望書を手渡す際、首相に「あなたはどこの国の総理ですか。今こそ、あなたが世界の核兵器廃絶の先頭に立つべきです」と、強い口調で迫った。例年なら書面を渡すだけの役割だが、前月に国連で採択された核禁条約に、唯一の戦争被爆国である日本が賛同しないことが納得できなかったからだ。

川野浩一さんが3年前の首相との面会の際に手にしていたメモ。

「あなたはどこの国の総理ですか」と核兵器禁止条約への批准を求めた＝長崎市で

「どうして私たちの気持ち分からないのか。何とかひと言言わなければと怒りを禁じ得なかった」。川野さんは面会当日の朝、「あなたはどこの国の総理ですか」などの言葉をメモし、要望の際に手にしていた。要望書を手渡そうとしたが、その手を引っ込

めて、思いを首相にぶつけた。

5歳の時、爆心地から3.1キロの自宅前で被爆した川野さん。5年前に食道がんを発症し、原爆症に認定された。ともに活動を続ける協議会のメンバーも、高齢化で施設に入所したり亡くなったりして、これまでのような活動ができなくなりつつある。

核禁条約への日本の参加を願って迎えた被爆75年の「原爆の日」。首相に会える1年に一度の機会に、少しでも被爆者の思いを分かってもらいたい。そんな気持ちを抱き、今回も被爆者代表の一人として出席した。被爆者側は「長崎を最後の被爆地に」と条約批准を改めて求めたが、首相はまたも賛意を示さなかった。面会は首相の日程を理由に予定時間の30分で終わり、質問もできなかった。

川野さんはつぶやいた。「首相から、ちっとも中身のある答えが返ってこない。80歳を超え、ぎりぎりだと思って活動しているのに、挫折感ばかりが大きくなっている」

## 遺族「忘れられない」 平和願ひ「人間の鎖」も一長崎・爆心地公園

時事通信 2020年08月09日16時00分



爆心地を示す碑を「人間の鎖」で囲む高校生

ら=9日午前、長崎市



長崎市松山町の爆心地公園では、9日早朝から被爆者や遺族、若者らが集まり、原爆犠牲者を悼んだ。「忘れられない」。遺族からは原爆投下から75年たっても癒えない心境も聞かれた。

通学中に亡くなった姉をしのびに来た菅多重子さん(82)＝同市深堀町＝は、公園内にある中心地碑の前に座り込み、長い間手を合わせ続けた。「75年たてば姉の記憶が薄れると思ったが、忘れられない」と声を落とした。

爆心地から約4キロ離れた地点で被爆した堀内豊さん(84)＝同市平和町＝は、碑の前を通るたびにきのこ雲が上がった瞬間を思い出すという。「避難先の防空壕(ごう)に担架で運ばれた人たちが目の前で亡くなっていった。戦争は人を傷つけるだけで、二度としてはいけない」と声を震わせた。

公園近くに住む桑本敏夫さん(70)＝同市西町＝は、犠牲者や今も原爆の後遺症に悩まされる人のために碑を訪れた。「核兵器があるから被爆で苦しむ人がいる」と核廃絶を訴えた。

公園では午前7時ごろ、平和を願う高校生ら約40人がリボンを持ち合って「人間の鎖」をつくり、碑を囲んだ。新型コロナウイルス感染防止のため、例年より参加者を減らし、手をつなぐに行かなかった。

参加した私立活水高校1年の渡辺あいさん(15)は、祖父(89)から原爆の話聞いた際、「若い世代に二度と同じ体験をさせたくない」と言われた。「被爆者の経験を受け継ぐことで、核兵器のある世界を少しでも変えていきたい」と話した。

## 長崎で平和願う「人間の鎖」 コロナで手つなげなくても朝日新聞デジタル米田悠一郎 2020年8月9日10時51分



原爆落下中心地碑を高校生が「人間の鎖」

で囲った。今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、手袋を着けてひもを使った=2020年8月9日午前7時1分、長崎市の爆心地公園、長沢幹城撮影



長崎市の爆心地公園では9日早朝、高校生らが平和への願いを込め、原爆落下中心地碑を囲む「人間の鎖」をつくった。

参加したのは、核廃絶を訴える署名活動などをする「高校生平和大使」たち。例年は国内外の高校生らが手を取り合うが、今年は新型コロナウイルスの感染防止のため、参加者を県内中心にした。集まった高校生ら約40人は直接手をつなぐ、ビニール手袋をした上でリボンの端をにぎり、落下中心碑を丸く囲んだ。

大使の1人で活水高3年の西村優香さん(18)は、75年前の被爆者の壮絶な体験を国内外の人に向けオンライン上で伝えたいと考えている。「高齢化する被爆者の思いを後世に受け継いでいきたい」と話した。(米田悠一郎)

## 長崎原爆の日 東京の高校生が戦争犠牲者を追悼 平和を学ぶ

NHK2020年8月9日14時59分



長崎に原爆が投下されて75年となる9日、都内では高校生が戦争の犠牲者を悼む慰霊碑を訪れ、平和について学びました。



「長崎原爆の日」の9日、東京の上野公園では高校生を対象に戦争や平和について学ぶフィールドワークが行われ、16人が参加しました。

高校生たちは、上野公園の中に建てられた東京大空襲の犠牲者を悼む慰霊碑の前に集まり、元教員の女性から東京大空襲で家族を失った戦争孤児のエピソードを聞いたり、戦争孤児の気持ちをつづった詩を朗読したりして、東京大空襲の被害や当時の人たちの思いについて学びました。

また、広島と長崎で原爆が投下された直後の街の様子をとらえた写真を見ながら、原爆の悲惨さについて説明を聞き、原爆と空襲の犠牲者を悼んで、全員で黙とうをささげました。

参加した高校2年生の男子生徒は「ふだんは戦争や核兵器のことを意識することはないので、原爆の日になにが起こったのかを考えることは大切だと思います。家族や友人とも戦争について話す機会を持つことを意識していきたい」と話していました。

### 「次世代育成、われわれの責任」 高校生平和大使、今年で23年―被爆2世平野さん

時事通信 2020年08月09日06時43分



取材に応じる「高校生平和大使」派遣委員会責任者の平野伸人さん＝7月28日、長崎市



国内外で被爆の実相と核兵器の廃絶を訴える「高校生平和大使」の活動が今年で23年目を迎えた。これまでに270人を超える全国の高校生がジュネーブの国連欧州本部など世界各国で広島、長崎の体験を伝えてきた。若者に平和への思いを受け継いでほしいと設立時から支え続けているのが派遣委員会責任者の平野伸人さん（73）だ。被爆者の高齢化が進む中、「次世代の平和運動の担い手を育てるのがわれわれの世代の責務だ」と力強く語る。

被爆2世の平野さんが原爆を意識したのは高校生の時。近所に住む幼なじみの同級生が白血病で突然死した。誰もが原爆の影響を疑った。この経験が、平野さんの平和運動の原点となった。東京の大学を卒業後、会社員を経て長崎で教員となった平野さんは、被爆2世としての活動を開始。平和運動のけん引役となっていた。

高校生平和大使の取り組みが始まったのは1998年。インド、パキスタンの核実験がきっかけだった。当時「ながさき平和大集会」の事務局長を務めていた平野さんは、「国連に若者を送ろう」と提案した。「平和運動に参加する若者が少ないという危機感があった。若い人を育てなければならぬと考えた」と振り返る。

当初は仲間内からも懐疑的な意見があり、被爆者からも「若い人に何ができるのか」と否定的な声を掛けられた。しかし、「そんなことを言ったら何事も始まらない」と反対を振り切った。同年、初代平和大使の2人がニューヨークの国連本部を訪れ、英語で核兵器廃絶を訴えた。

高校生平和大使の活動は、2018年と19年にノーベル平和賞候補に推薦されるなど世界的に評価されるようになった。「粘り強さが成功につながった」と平野さんは自信を見せる。

課題も抱えている。「平和大使の期間だけは務めるが、終わったらどこにいるのか分からない子も当然いる」と活動の難しさを語る。「運動をやっていてよかった」と感じるのは毎年8月9日、長崎市に集まる20～30人のOB、OGと会食する時。「23年間、日曜日をすべて使って育て続けてきた。子どもたちの将来が非常に頼もしい」と次世代を担う若者に期待を寄せている。

### 高校生ら「人間の鎖」 まぶたの惨状訴える被爆者 長崎 祈り

### の朝

毎日新聞 2020年8月9日 10時33分(最終更新 8月9日 18時00分)



原爆落下中心地碑の周りに人間の鎖

を作る高校生たち。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手袋をつけリボンで円を描いた＝長崎市で2020年8月9日午前7時2分、徳野仁子撮影

原爆投下から75年となった9日、長崎市は朝から犠牲者を思い、平和を誓う市民の祈りに包まれた。

同市松山町の爆心地公園では早朝、国連に核兵器廃絶を求めて署名を届けている「高校生平和大使」など若者が集会を開いた。高校生たちは原爆落下中心地碑を囲んで手をつなぐ「人間の鎖」で核兵器廃絶への思いを表現。今年には新型コロナウイルス感染拡大防止のため、手袋をつけた手でリボンを持って円を描き、献花、黙とうして原爆で亡くなった人々を悼んだ。

近くのパークにも原爆犠牲者の遺族や友人が早朝から次々に訪れ、平和祈念像の前で手を合わせた。長崎県大村市の高嶋ミヤ子さん（92）は「長崎青年師範学校2年生の時、爆心地から1・8キロの東北郷（現住吉町付近）の寮で被爆し、2歳下の弟と母を1年後に相次いで亡くした。黒焦げになった同級生の姿は今も忘れない。犠牲者だけでなく、生き残った人も苦しんでいる」と話した。

長崎市の萩原数夫さん（82）は「爆心地に近い長崎刑務所浦上刑務支所の官舎に住んでいた、いとこ2人を亡くした。悲報を父から聞いたのは戦後2年が過ぎてから。当時は合併前の南島原市に住んでおり、被爆は免れたが、平和公園が焼け野原だった時を知る世代として、原爆の恐ろしさを伝えたい」と訴えた。

浦上天主堂（長崎市本尾町）では、早朝ミサに訪れた人たちが原爆犠牲者を悼み、平和への祈りをささげた。【飯田憲】

### 高校生らが地元の「原爆の火」を訪れ平和を考える 感染拡大で被爆地行けず

東京新聞 2020年8月10日 05時50分

長崎原爆の日にあたる9日、平和学習に取り組んでいる東京都内の高校生たちが台東区の上野東照宮に設置されているモニュメント「広島・長崎の火」を訪れ、原爆の悲惨さや核廃絶運動について学んだ。

学校の枠を超えて平和を学ぶサークル「東京高校生平和ゼミナール」が企画し、16人が参加した。例年は8月6、9日前後に広島、長崎へ平和学習旅行に行くが、今年には新型コロナウイルス感染拡大で、地元での学習会に変更した。

モニュメントの前で、元高校教諭の沖村民雄さん（72）が30年前に「広島・長崎の火」が上野にともされるようになった経緯や、来年3月に福島県楡葉町に移設されることなどを説明。原爆投下の時間には全員で黙とうし「核兵器をなくすために何ができるか考えてほしい」と呼びかけた。

都立工芸高2年の沖聡太郎さん(16)は「長年、原爆の火が受け継がれてきたのは素晴らしいことだと思った。平和について友人たちにも話して興味を持ってもらいたい」と話した。

高校生たちは上野公園内の母子像「時忘れじの塔」も訪れ、10万人以上が亡くなった東京大空襲の被害について学び、犠牲者に思いを寄せた。(木谷孝洋)

## 【SDGs×コロナ後の世界】被爆証言、オンラインの壁を乗り越えろ

JNN2020年8月9日 15時00分

シリーズ現場から、「コロナ後の世界」です。原爆投下から75年。広島では「オンライン被爆証言」の試みが広がっています。

広島市で開かれた「オンライン証言会」。被爆者の梶山雅子さん(88)に、入所している施設からオンラインで証言してもらっています。

聞き役として、広島皆実高校の生徒たちが準備を重ねてきました。証言会の2週間前、生徒たちは初めて梶山さんと顔を合わせました。

「みんな死んじゃったのね、ハチロク(8.6)。行ったことある？慰霊碑。あそこに記されているのは、みんな私の8月4日まで一緒だった同級生」(梶山雅子さん)

75年前、梶山さんはこの学校の前身＝県立広島第一高等女学校の1年生でした。あの日、爆心地近くで建物疎開の作業をしていた1年生223人は全滅。梶山さんは作業を休んで自宅にいたため、助かりました。亡くなった同級生の中には、梶山さんの親友、石堂郁江さん＝「いくちゃん」もいました。

「『いくちゃん』のことなんですけど、その後どうなったか分かりますか？」(中野凜さん〔2年生〕)

「いくちゃんがボロボロになってね・・・」(梶山雅子さん)

梶山さんは、いくちゃんとの思い出や被爆当時の状況について、これ以上、詳しく語ることはありませんでした。

「(梶山さんは)深いことは直接会って話します、みたいな感じなのかなって」(中野凜さん〔2年生〕)

「オンラインで非常に話しにくいけど、今、話したいという気持ちになってもらうしかない」(生徒会顧問・尼川貴史先生)

多くの友人を奪われ、今も苦しんでいる梶山さん。その心を聞いてもらうのは、画面越しの対話では難しかったのです。そして、オンライン証言会の当日。

「黒板に書いときなさいって先生が言ったことを『いくちゃん書いて』って言ったら忘れて、『まーちゃん(梶山さん)の字より私の方がきれいだから書く』とかね」(梶山雅子さん)

亡くなった同級生のいくちゃんについても話してくれました。実は、2週間前の聞き取りの後、生徒たちは梶山さんに毎日電話をして対話を重ねていました。

「お友達と遊ぶこと楽しいよね。とつても楽しかったよ。何をしても。ただ、戦争でわけが分からなくて。今の皆さんは二度とないのよ」(梶山雅子さん)

「原爆が落ちたとき、大事な家族や友達を亡くしたりして、今そういうことが自分に起きたらすごく悲しいし、これからは友達や家族を大事にしようと思う」(小学6年生の女子児童)

生徒たちは、梶山さんの思いを受け止めようともがく中で、「聞

く姿勢」の大切さに気づいたといいます。

「信頼関係が築けたから、それ(リモート)でもちゃんと対話することができたかなって。私たちの聞きたい思いが伝わったのかなと思った」(鈴木麗奈さん〔2年生〕)

しんぶん赤旗2020年8月10日(月)

## 「被爆者の思い継ぐ」全国高校生平和オンライン集会



(写真) うたごえで交流する

全国高校生平和集会の参加者＝9日

全国高校生平和集会が9日、オンラインで開かれ、核兵器と戦争のない世界に向け交流しました。同集会実行委員会と広島実行委員会の主催。

広島県内の高校生が基調報告し、「証言に積極的に耳を傾けて学び、戦争の悲惨さ、被爆者の思いを受けつぐことが私たち高校生に求められている」と指摘。核兵器禁止条約について「被爆者の方々の悲願。条約について学び声をあげよう」と呼びかけました。

広島の被爆者の小笠原伸江さん(81)が体験を語り、「核兵器禁止条約を批准した小さな国々が世界を動かす時代になりました。皆さんもこの国の主人公、未来を担う若者として、戦争のこと、平和のことなど真剣に考えてほしい」と述べました。

各地の高校生が「核兵器禁止条約に署名・批准する日本政府をつくるには、同じ思いを持ち共に声をあげる仲間を増やすことだ」(東京)「(新基地建設の)辺野古周辺で貝の調査をしている。生物多様性の宝庫の海を守りたい。沖縄の平和と民主主義、人権を守ることになる」(沖縄)と述べました。

「悲劇を二度と繰り返さないように、一人ひとりが改めて平和とは何か考えよう」(長崎)「平和をつくる上で皆が考えを持つことが行動の第一歩だ」(埼玉)などの訴えが続きました

## 広島・長崎の被爆建造物、217件中39件解体 老朽化進み市有の建物も

毎日新聞2020年8月9日 22時59分(最終更新 8月9日 23時38分)



旧城山国民学校校舎＝長崎市城山町で2016年6月、大平明日香撮影

広島、長崎両市に投下された原爆の被害を伝える被爆建造物として登録されている計217件のうち、2割近い39件が老朽化などを理由に取り壊された。このうち広島は民間が所有するものが8割を占める一方、長崎では旧国民学校校舎など市が所有する建物がほぼ半数に上った。専門家は「被爆の歴史を残そうという意

識が行政に足りないのではないかと指摘する。

広島市は1993年から、爆心地からおおむね5キロ以内で被爆した建物を登録して所有者に保存や継承を呼びかけ、現在は補修費用として木造は3000万円、非木造は8000万円を上限に全額補助している。長崎市は98年に建物や工作物、橋などを被爆の痕跡の有無などでA～Dの4段階に分け、痕跡が明確なAとBには3000万円を上限に補修費用の4分の3を補助する事業を始めた。

広島市で取り壊されたのは、世界遺産の原爆ドームなどこれまでに登録された建物105件のうち、被爆翌日から送電を再開した旧中国配電南部変電所（爆心地から3・79キロ、2018年解体）など19件。老朽化や都市計画道路の整備が理由で、15件が民間所有だった。耐震改修に何億円もかかる場合があり、市からの補助金だけでは不十分だとの声が強い。

長崎市では、国の史跡に指定されている旧城山国民学校校舎など112件のうち20件が解体された。負傷者の救護所になった旧新興善（しんこうぜん）国民学校校舎（爆心地から約3キロ、04年解体）など市所有の建物が9件含まれる。残りは補助金が出ないC、Dランクが大半だった。市被爆継承課は「財源に限度がある。所有者に解体の意向があればやむを得ない」と説明する。

被爆建造物に詳しい長崎総合科学大の李桓准教授（建築学）は「解体が相次ぐ背景には、被爆の歴史を保存する重要性が十分に理解されていないことがあるのではないかと。行政の意識も働きかけも弱い」と指摘。「財源がないというのは理由に過ぎない。保存方法はいろいろあり、全部が難しければ一部でも効果的に残すことは可能で、努力があまり見られない」と話している。【松村真友、園部仁史】

## 詩人・谷川俊太郎さんが見つけた戦争反対への道

東京新聞 2020年8月9日 06時00分

詩人の谷川俊太郎さん（88）は、平和への思いを、自らの言葉で詩に込めてきた。戦後75年を迎えたこの夏、本紙のインタビューに応じ、毎日の生活を地道に続け、その生活を守ることしか戦争反対の道はないと語った。

父は法政大総長も務めた哲学者、徹三さん＝愛知県常滑町（現・常滑市）出身。谷川さんは満州事変が起きた1931年に東京で生まれ、45年5月の「山の手空襲」を体験した。「戦争に対する不安というはずとある。反戦の詩とかそういうのを書くのは自然な流れだった」

年を追うごとに「戦争ってのはなくなる」と確信するようになった。世界中でテロ行為的な戦争が次々と起きる。リモートコントロールで爆撃できるドローンのように、新しい技術はすぐに兵器に応用される。そんな現実にもぶつかっても、反戦の思いは変わらないという。「どんなに正義をふりかざしても、人が人を殺すのは自分にとっては嫌」と話す。

日本の戦後については「ずっとまあ、一応、平和だった。我々の日常生活ってのは平和がまず先」と振り返った。一人の人間として、戦争にあらがうにはどうすればいいのか。谷川さんが思い至ったのは「地道に毎日の生活を続けていくこと。その生活を信じ、守ること」だ。

## 平和とは「地道に生活を続けていくこと」 谷川俊太郎さんが詩に込めてきた思い

東京新聞 2020年8月9日 06時00分

詩人谷川俊太郎さん（88）は戦後、平和とは何かを自らの言葉で問い続けてきた。少年時代に空襲を体験した谷川さんの目に、戦争はどのように映ってきたのか。戦争を知らない世代に平和をどのように伝えていくのか。詩に込めた思いを聞いた。

◆山の手空襲 「死ぬって気が全然なくてね」

ー1945年5月、谷川さんは山の手空襲を体験した。まだ13歳だった。

焼夷弾が降ってくるのが見えて、それが風かなんかでそれていくんですね。あーよかった、みたいなことをやりました。そのころの男の子って、戦争を一種、楽しんでいるところがあったんですよ。怖いけども。死ぬって気が全然なくてね。防空壕に入ったりはしてましたけど。

空襲の日のあくる日の朝に、友達と自転車で実際に焼夷弾が落ちた場所へ出掛けていって、そこで焼死体をいくつも見たんです。それが一番強烈な経験ですね。ただ、それもまあ男の子だから。その辺の焼夷弾の破片を拾ってきて、うちへぶつけて爆発させたりとかね。遊び半分みたいな感じでした。

うちが割と恵まれていてね、母がずっといてくれたわけだから、あんまり不安を感じなかったってことはあると思うんですけども。

うちの父が、戦争がだいぶ終わりに近づいたところに、どうやって日本を救うか、海軍の人たちとか何人かで秘密に会っていたことがあるんですね。そういうことが空気として分かっている。

首相だった東条英機さんが新聞で、こどもの頭をなでているようなのがあったのね。それを見て、父がすごい苦々しげに「こういうことをやるようになったら、おしまいだ」と言ったのは、すごくはっきり記憶してますね。

◆戦争は悪 「人が人を殺すとか、嫌だな」

一時がたつにつれ、戦争はなくなるとの考えに至った。

若いころは戦争はなくなることができるってどこかで思っていた気がするんですけど。

ある時期から戦争ってのはなくなるというふうには確信するようになったんですよ。戦争の原因というのは、突き詰めれば、人間の一種の欲望みたいなものだろうと。

今の世の中はほんとに複雑化していて。戦争が錯綜した原因で起こっていると思うし。国家同士の戦争は逆になくなってきているわけですよ。で、テロ行為的な戦争がすごく盛んになっていて。そういう中で、例えばドローンによる、完全にリモートで戦争しているみたいなことが起こってきたわけだから。

我々が感じていた戦争とは、全然違うものになっているというのが強いんですよ。

それでも戦争が悪であるというのは全然変わらなくてね。どんなに正義をふりかざしても、人が人を殺すとかね、そういうのがやっぱり自分にとってはちょっと嫌だな、ということになっちゃいますね。

今にも生身の人間が全然、戦争しないで、ロボットとかサイボーグが闘うようになるんでしょうね。その感じってのは何か

ゲームでみんな感じているんじゃないかという気がするのね。

それも怖いんですよ。生身でない戦争を感じちゃって、それが戦争だと思っちゃう若い人たちがいたら。人間の命の見方が、ちょっと違ってくるような気がしますけどね。

一戦後75年を迎えた。戦争体験を知る人たちが減り続けている。

語り部的なことをやっている人がいて、とにかく伝えなきゃいけないというのは確かにあるんだけど、無理だと思いますね。どうしたって忘れちゃいますね。

録音、録画でとっておくことはできるけども、違うんですよ。メディアを通すと。

だから、僕が考えるのはやはり、作品、フィクションでいいものがあれば、その感覚というか、その経験がよみがえるんじゃないかという気がするんですよ。事実は忘れ去られても、芸術作品としてよみがえることはありうると。

一再び戦争を起ささないため、戦争に協力した歴史を反省すべきか。

いくら戦争反対といっても、個人が戦争反対ということを行動に移せないと思うんですよ。

やはり実際に戦争を動かすのは大企業とかね、武器産業とか、本当に戦争をしたい有力者がいるんだろうと思うんですよ。戦争がもうかるということであれば、そういうところまで動かすわけにはいかないと思うんですけどね。

反省する必要はなくて、むしろ逆に今の状況の中で、どうやって自分が戦争に反対することができるのかというふうに考えないと。

簡単に言えば、その人がその人の仕事をちゃんと地道にやっていて、日常生活、まあ家庭を持っていれば家庭をちゃんとやっていくことが必要だと思いますね。

地道に毎日の生活をちゃんと続けていくってことが平和だということだろうと思いますね。

基本的にそういう人間の普通の生活を信じて、それを守るといふことしか戦争反対の道はないという気がするんです。

それが、たった一人であってもね。

#### ◆反戦詩「戦争に対する不安は、ずっとある」

一原爆をテーマにした詩を書いた。ベトナム戦争では反戦の詩をつづり、武満徹さんが作曲した。

戦争に対する不安というのは、ずっとあるわけですよ。戦争と平和っていうことを自然に、自分の日常生活の中でも考えたり、感じたりするようになっているので。反戦の詩とか、そういうのを書くのは自然な流れだったと思いますね。

自分は現実に対して、やっぱりある距離をとって詩を書いてますね。戦争が嫌だから戦争反対って詩を書くとか、あんまり意味がないと。自分が持っている技量、技術っていうのかな、それか感性を、普通のシュプレヒコールでみんなが叫ぶような言葉じゃない言葉で書きたいというのは最初からありました。

僕は言葉の力を過信しないようにして。言葉はどうしてもそこに被膜をつくってしまう。生の手触りを失うようなものだと思うのね。それを破るのはほんとにいい文章ということになるんですけどね。

詩を書いていると、自分の身近なことから、宇宙の話から、言

葉が広がっていくわけですよ。その中に食事のことと同じように戦争のことが頭に浮かぶわけじゃないですか。

2015年に絵本「せんそうしない」、一九年には「へいわとせんそう」を出版。「戦争が終わって平和になるんじゃない 平和な毎日に戦争が侵入してくるんだ」と思いを込めた。

日本はずっとまあ一応、平和だったわけですよ、あの戦争に負けてから。なんか今ちょっとみんな思っていないかもしれないけど。平和ってのが当然であるのに、戦争と平和っていうふうに対立語のようにとらえるのは、ちょっとおかしいんじゃないかと。我々の日常生活ってのは、平和がまず先であって、そこに戦争が侵入してくる。

子どものために書くというよりも、絵本というのは自分の中で大きなメディアになっているんですね。若いころから絵本を随分書いてきたし。今、やはりなんか世の中がこう不安になって、戦争をテーマに描かないかと誘いが来るので、書いたんです。

「せんそうしない」というのは、人間だけが戦争しているんで、他の生き物は争いはするにしても戦争はしてないわけですよ。「へいわとせんそう」はトルストイ以来、「戦争と平和」となって、定着しているけど、逆なんじゃないかと。

#### 渡辺主筆、戦争体験「書き残していかないといけない」…NHK番組で語る

読売新聞 2020/08/10 05:00

NHKは9日夜の「NHKスペシャル」で、渡辺恒雄・読売新聞グループ本社代表取締役主筆のインタビュー番組を放送した。3月に放送された「昭和編」に続くもので、「戦争と政治」をテーマに制作した。

読売新聞が2005年から1年間かけて大型連載「検証 戦争責任」に取り組んだことについて、渡辺氏は「何百万人も殺して、日本中を廃虚にした。その連中の責任を問わなくて、いっしょに政治ができるわけない」と指摘。「若い人たちに戦争を知らせないといけない、戦争責任のキャンペーンをやらないと進まないというのが僕の気持ちだった」と明かした。

そのうえで、「戦争のことはまだ伝え切れていない。だから、書き残していかないといけない」と述べ、戦争体験を伝え続けることの意義を強調した。

渡辺氏は番組で「軍国主義に抵抗した」旧制高校時代や「理由もなしにボコボコ殴られた」軍隊生活など、自らの戦争にまつわる体験を語った。

また、政治記者として取材した吉田茂や鳩山一郎、池田勇人ら戦後の歴代首相は「みんな自由主義者、反戦派だった」と指摘。親交の深かった大野伴睦・元自民党副総裁について「戦時中から自由主義者、反戦・反軍主義者。だから、気が合った」と振り返った。

#### 「私たちはみなヒバクシャ」世界の健康被害、撮り続けた

朝日新聞デジタル 田井中雅人 2020年8月9日 14時45分



米国は1976年から79年にかけて、核実験の放射性物質で汚染されたマーシャル諸島エニウェトク環礁の五つの

島の除染作業を行い、プルトニウムなどに汚染された土壌や残がいをコンクリートとともに、核実験でできたクレーターに投棄した。除染作業は約4千人の米軍兵士によって行われた（ルニット島、1978年9月撮影）

フォトジャーナリストの豊崎博光さん（72）＝神奈川県湯河原町＝は40年余りにわたって、米国による核実験で故郷の島を追われた太平洋・マーシャル諸島の人々や、米国の核開発によって健康被害を受けた先住民や米兵ら、旧ソ連の原発事故による被害者など、世界の「ヒバクシャ」の取材を重ねてきた。

「日本人は、75年前に不幸にも広島・長崎で原爆被害にあった人たちと自分は違うと思いがちだが、私たちはみなヒバクシャです。核実験や原発事故により、地球規模で放射線は流れているのに、自分は被ばくしていないと思っている」



米国が太平洋ビキニ環礁で実施した

水爆「ブラボー」実験などによってできたクレーター（1994年3月撮影）



不安な表情を浮かべながら再移住する

ビキニ島民ら。1968年8月、ジョンソン米大統領はビキニ環礁の島々の放射線量が減ったとして「ビキニ安全宣言」を発表。翌69年より、避難先のキリ島に移住していた一部住民がビキニ島に帰郷した。78年8月、米国の「ビキニ安全宣言」を信じて帰郷していたビキニ島住民139人の体内放射線量が上がり、全員がキリ島に戻された。ビキニ島内産のヤシの実などを食べたことが原因とされ、米国はビキニ環礁を以後60年間閉鎖すると発表した（1978年8月撮影）

米国は、広島・長崎への原爆攻撃から間もない1946年から58年にかけて、マーシャル諸島で67回の核実験を実施。54年の水爆「ブラボー」の実験では、静岡県のマグロ漁船「第五福竜丸」などが「死の灰」を浴びた。約1千隻の日本の船がその海域を航行したが、米日両政府は第五福竜丸だけに限定し、200万ドルの「見舞金」で政治決着した。また、水爆実験で健康被害を受けたと訴える高知県の元漁船員ら11人について、労災認定にあたる船員保険の適用を審査した厚生労働省の社会保険審査会は昨年9月、元船員らの再審査請求を棄却した。健康被害は「放射線被ばくによるものと認められない」と判断した。

豊崎さんは、78年からマーシャル諸島に通い、ロンゲラップ島の元村長ジョン・アンジャインさん一家らの写真を撮り、体験を聞き取った。米国の研究所は、妊婦を含む島民らをグループ分けし、「被ばく者」と「非被ばく者」の2種類のカードを持たせた。核実験後の避難行動や摂取した食物などの記録を取り、体内の放射線量を測定した。



米国で甲状腺の検査を受けるジョ

ン・アンジャインさんの四男レコジさん。1954年3月の水爆「ブラボー」実験当時1歳で、ロンゲラップ島に降った「白い粉」（放射性降下物）の中で駆け回って遊んだという。68年に米医師団の定期検診で甲状腺の異常が見つかり、米ニューヨーク州の米ブルックヘブン国立研究所で手術を受ける。72年、急性骨髄性白血病により、19歳で死去（ジョン・アンジャインさんのアルバムから）



太平洋ビキニ環礁の東約180キロにあるマーシャル

諸島・ロンゲラップ島の元村長ジョン・アンジャインさん。手にしているのは、1954年3月1日の水爆「ブラボー」実験の後、米国が被ばく証明用に撮影した写真。「ロンゲラップ40番プロジェクト4.1」の札を持たされている。爆発威力は15メガトン、広島型原爆の約1千倍だった。島民の9割は放射性降下物によるやけどを負ったが、米国は「地元の住民が予期せず若干の放射性物質を浴びた。やけどはない」などと発表。薬を与えず、治療もせず、やけどなど被ばくによる症状を観察した。ジョンさんは避難先の島で3年間過ごしたあと、ロンゲラップ島に帰還したが、変わり果てた島での食料調達に苦労した。口のまわりには水疱（すいほう）ができ、下痢をした。体全体がかゆかったという。帰島後、多くの女性が死産や流産を経験。80年代に入ると、被ばく2世や3世にも影響が表れた。85年、島に残る放射性物質の影響から逃れるため、島民らは約190キロ南のメジャト島に移住した。ジョンさんは73年に米オハイオ州の病院で甲状腺結節の手術を受けた。2004年7月、肺と胃に腫瘍（しゅよう）のようなものが見つかり、精密検査のためにハワイの海軍病院に入院し、81歳で死去。死因は胃がんとされた（2000年10月撮影）

豊崎さんが入手した米国の機密文書にはこう記されていた。「ロンゲラップは地球上のいかなる土地よりも放射線量が高い。放射線についての貴重なデータを提供してくれる。こういうデータは今まで（広島・長崎原爆では）手に入らなかったものだ」。ソ連との核戦争に備えて放射線の人体影響を調べる米国の「プロジェクト」だった。

「核大国アメリカはヒバクシャ大国です」と豊崎さん。ネバダ核実験場などの風下被ばく者など約100万人もいる。

核大国の核実験場にされた南半球の国々など122カ国が賛成して2017年に採択された核兵器禁止条約の前文は「核兵器の使用による犠牲者（ヒバクシャ）と核実験による被害者の受け入れがたい苦難を心に留める」とうたう。



1987年秋、ニューヨークで「第1回核被害者世界大会」が開かれ、参加した日本、米国、英国、フランス、

ドイツ、スウェーデン、マレーシア、フィリピン、台湾、韓国、マーシャル諸島、ポリネシアなどの放射線被ばく者は自らを「HIBAKUSHA（ヒバクシャ）」と名乗り始めた。「ヒバクシャの存在を認めて補償をするべきだ」と訴えて、ニューヨーク市内をデモ行進するヒバクシャたち。中央は広島原爆被爆者の森滝市郎さん（1987年10月撮影）

マーシャル諸島は条約の署名・批准を済ませていない。島には米軍のミサイル実験施設があり、条約に反対する米国の援助がなければ国として成り立たない。

冷戦は約30年前に終わったが、トランプ米政権は「使える核兵器」開発を続ける。こうして多数のヒバクシャを生みながら造られた米国の「核の傘」に安全保障を委ねる日本政府も、条約に背を向けている。（田井中雅人）



豊崎博光さん=2020年7月5日、神奈川県湯河原町、田井中雅人撮影

とよさき・ひろみつ 1948年、横浜市生まれ。78年から核問題の取材を始める。「アトミック・エイジ」（95年）で平和・協同ジャーナリスト基金賞、「マーシャル諸島 核の世紀」（05年）で日本ジャーナリスト会議（JCJ）賞を受賞。

シリーズで刊行

豊崎博光さんは「写真と証言で伝える世界のヒバクシャ」シリーズの刊行を始めた。「核兵器の製造や原子力発電などが始まって以来、ヒバクシャが生み出され続けていることを知ってほしい」と話す。第1巻「マーシャル諸島住民と日本マグロ漁船乗組員」（既刊、税別1万5千円）、第2巻「アメリカ被ばく米兵と被ばく住民」（今秋刊行）、第3巻「旧ソ連、オーストラリア、日本」（21年刊行）。問い合わせは、すいれん舎（電話03・5259・6060、ファクス03・5259・6070）へ。

### 両親が語った「長崎の地獄絵」 岩手の72歳、語り継ぐ願い 被爆体験公表

毎日新聞 2020年8月9日 09時25分(最終更新 8月9日 09時25分)



長崎で被爆した稲村一哉さん（写真男性）と妻の熙子さん（写真女性）=岩手県岩手町で2020年8

月3日午後6時17分、日向米華撮影

岩手県岩手町で製材業を営む稲村吉則さん（72）の両親は長崎への原爆投下で被爆した経験を持つ。稲村さんは「両親が経験したような悲惨な思いを次の若い世代には二度としてほしくない」と願い、両親の被爆体験を初めて公表した。長崎に原爆が投下され9日で75年。【日向米華】

稲村さんが両親の被爆について知ったのは小学生の頃だ。親戚から話を聞いただけで、両親から直接聞く機会はなかった。気になって何度か尋ねたが、両親は口を閉ざし続けた。

月日がたち、転機が訪れる。稲村さんが妻君江さん（72）と結婚し子どもが生まれると、少しずつ当時の話を打ち明けてくれるようになった。「若い世代に伝えておかなきゃという気持ちが芽生えたのかな」。両親の思いをそう推し量る。

稲村さんの父一哉さんは岩手町出身。盛岡一高を卒業し、東京美術学校（現東京芸術大）の図案科に進学した。その後、三菱重工長崎造船所に入社し、船の設計に携わっていた。1944年には、水沢市（現奥州市）出身の熙子（ひろこ）さんと結婚し長崎での新婚生活をスタートした。



父一哉さんが戦後長崎に行った時の写

真を眺める稲村吉則さん（左）と妻の君江さん=岩手県岩手町で2020年8月5日午後4時9分、日向米華撮影

45年8月9日午前11時2分、一哉さんは洞窟にある設計部で勤務していて、直接の被害は免れた。一方、生後5カ月の長女と自宅にいた熙子さんは直接爆風を受けた。とっさに長女に覆いかぶさり、熙子さんの背中にはガラスが突き刺さった。自身の背中へのけがに気づくことなく、裸足で救護所へ向かった。

一哉さんは家族を捜すため市内を歩き回った。皮膚が焼けたでれた人や、「熱い熱い」と言って川へ飛び込む人々——。爆心地から近い社宅に住んでいた同僚やその家族らも一瞬にして失った。「あまりにも悲惨で地獄絵だった」。一哉さんは声を絞り出すように語ったという。

無事再会した一家はその年の12月、一哉さんの故郷の岩手町に戻った。その後、戦後の復興で需要が大きかった製材会社を興し、稲村さんら5人の子どもを育てた。毎年8月9日は原爆投下の時間を知らせる町のサイレンに合わせ、家族で祈りをささげてきた。

原爆から生き延び、一哉さんは82歳、熙子さんは85歳で生涯を閉じた。親から子、子から孫へ——。稲村さん自身も年を重ね、両親から聞いた被爆体験を次世代に残したいと思うようになった。「私自身、両親の被爆体験を聞いてから戦争の悲惨さをより強く感じるようになった。両親は言うのもつらかっただろう体験を伝えてくれた。今の若い世代にも戦争があってはならないものだ」と知ってほしい

「核も戦争も消えぬ今をお叱りください」 父を沖繩戦で亡くした長崎被爆女性の願い



父・下瀬豊さんの遺筆を眺める娘の永田栄

子さん＝長崎市の自宅で2020年6月17日午後3時35分、松村真友撮影

7万4000人が犠牲になり、今なお多くの方が原爆症などに苦しむ長崎市への原爆投下から9日で75年となった。被爆者も年を重ね、原爆や戦争の記憶を伝えることは年々難しくなっている。そんな中、太平洋戦争の沖縄戦で新聞記者だった父を亡くし、2カ月後に自身が被爆した永田栄子さん(75)＝長崎市＝は原爆と沖縄戦に翻弄(ほんろう)された一人として、毎年夏、孫たちに手紙を書き続けている。



下瀬豊さん＝永田栄子さん提供

父は記者、沖縄で従軍取材

永田さんの父で毎日新聞の記者だった下瀬豊さんは1945年2月、沖縄本島に上陸して沖縄戦線の従軍取材を始めた。長崎市中島の自宅に妻ミヤ子さんと当時2歳だった長女淑子さん(77)を残していた。ミヤ子さんのおなかには次女の永田さんがいた。

下瀬さんは敗色が濃くなった45年6月、沖縄を脱出して内地で戦況を伝えるよう軍の特命を受け、当時の摩文仁(まぶに)村(現・糸満市)から船に乗ったまま行方不明に。6月18日に戦死したと認定された。32歳だった。

永田さんが生まれたのはその8日後の6月26日。当時の長崎市は度々空襲に遭っており、ミヤ子さんは出産した日も生まれたばかりの永田さんを抱いて防空壕(ごう)に避難。翌日、ふらふらになって帰り着いた。この時はまだ夫の死を知る由もなかった。



下瀬豊さん＝永田栄子さん提供

原爆投下、母が見た「この世の地獄」

8月9日午前11時2分、ミヤ子さんが昼食の用意をしようと台所に立った時、爆心地から約4キロ離れた中小島もごう音と爆風に襲われた。ミヤ子さんはとっさに生後約1カ月半の永田さんに、永田さんの祖母は淑子さんに覆いかぶさった。

4人は無事だったが、近くの防空壕に避難すると永田さんが泣いたため、ミヤ子さんは周りに迷惑をかけまいと永田さんを連れて家に戻った。道中、ミヤ子さんは大けがをした人や皮膚が焼けただれた人と何度もすれ違った。「この世の地獄だった」。生前、

ミヤ子さんは永田さんに語った。

差別を恐れた祖母 女手一つで育ててくれた母

永田さんは祖母に「被爆したことを人に言うてはいけない。言えば差別される」と言い聞かされて育った。戦後、被爆者には「短命だ」といった偏見と差別がつきまとった時期があった。永田さんは被爆者としての差別体験はないが「祖母は私たちが嫁に行けなかったらと心配していた。片親だというだけでも差別があったから」と振り返る。

ミヤ子さんは洋裁や仲居をしながら女手一つで娘たちを育てた。永田さんは70年、25歳で夫勝義さん(80)と結婚。子、孫に恵まれた。「あの人は死んでいない。きっとどこかにいる」と夫の帰りを終生待ち続けたミヤ子さんにも寄り添い、沖縄戦で犠牲になった新聞関係14人の名が刻まれた那覇市の「戦没新聞人の碑」などを一緒に訪れた。

「母の生前の嘆きや苦勞が忘れられない」と永田さん。その思いから、両親ばかりか祖父母の代も戦争を知らない孫の世代に自分の知り得る限りを伝えなければ、と駆り立てられた。

孫には毎年メッセージ「分かるまで、嫌がられても書く」

娘はオーストラリア人男性と結婚し、一家で豪州にいる。永田さんは中学生と小学生の孫3人に3年前から毎年夏、メッセージを送っている。「沖縄戦では母親が子を背負って敵に向かって行った。子供が手りゅう弾を手にしてたんだ」。そうつぶつても孫たちにはどこまで伝わっているだろうか。「悲惨さが届いているのか分からないけれど、分かるまで、嫌がられても毎年書くつもり」

9日は勝義さんと自宅で黙とうをささげる。「犠牲者の皆さんには『安らかに眠りください』ではなく、75年たっても核も戦争もなくならない現状をお叱りくださいと伝えたい。力をお貸しください、と」【松村真友】

ローマ教皇、核なき世界呼び掛け 被爆75年で訪日振り返り

2020/8/9 21:22 (JST)8/9 21:31 (JST)updated 共同通信社



サンピエトロ大聖堂の窓からメッセージ

を読み上げるローマ教皇フランシスコは9日、パチカン(AP=共同)

【ローマ共同】ローマ教皇フランシスコは9日、広島と長崎の被爆から75年がたったことに言及しながら、昨年の両市訪問を振り返り「世界が核兵器から完全に解放されるための祈りと努力」を改めて呼び掛けた。

パチカンで開かれた日曜恒例の祈りの集会で述べた。教皇は昨年11月、教皇として38年ぶりに訪日し、両被爆地から核兵器廃絶の必要性を訴えるメッセージを発信した。

教皇、広島・長崎に言及 核なき世界へ「祈り、行動を」

朝日新聞デジタルローマ=河原田慎一 2020年8月10日 1時57分



9日、バチカンのサンピエトロ広場で開かれた

「正午の祈り」で話すフランシスコ教皇=AP

(83)は9日、バチカンのサンピエトロ広場で開かれた「正午の祈り」で、世界が核兵器のない世界に注力するよう訴えた。

正午の祈りは、毎週日曜日に行っている。昨年11月に訪日したフランシスコ教皇は、ローマ教皇として38年ぶりとなった広島、長崎への訪問を「感動と感謝の気持ちをもって思い返している」と語った。両都市への原爆投下から75年になるのを受け、改めて核無き世界に向け祈り、行動するよう求めた。(ローマ=河原田慎一)

### バンコクでも原爆展「ノーモア ヒロシマ ナガサキ」

朝日新聞デジタルバンコク=貝瀬秋彦 2020年8月8日 14時47分



バンコクで被爆75年に合わせて始まった「原爆展」=2020年8月6日、貝瀬秋彦撮影



広島と長崎の原爆による被害の実態を伝え、核兵器のない世界の実現を訴える「原爆展」が6日、タイの首都バンコクで始まった。被爆75年に合わせ、「平和首長会議」(事務局・広島市)の理事都市でもあるバンコク都が主催した。

開会式で、バンコク都のアサウィン知事は「バンコクの市民が、核爆弾による人類への深刻な被害への理解を深めることを期待している」とあいさつ。梨田和也・駐タイ日本大使は「日本は唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた国際社会の努力を一步一步、着実に前に進めることが最大の使命だ」と述べた。

バンコク都は例年、8月6日に開かれる広島市の平和記念式典などに参加してきたが、今年は新型コロナウイルスの影響で式典の規模が縮小。8月上旬に広島市で開催予定だった平和首長会議の総会も、来年に延期された。首長会議の事務局からは各都市でできることをしてほしいとの依頼があったことから、事務局の協力を得て「原爆展」を開くことにした。

会場には、原爆投下以前の広島、長崎の様子や投下後の惨状、被爆者の被害の実態などを伝えるパネルを展示。病床で折り鶴を折り続け、12歳で白血病で亡くなった佐々木禎子さんの話も紹介されている。原爆に関する映画の上映もあり、催しのスローガンは「ノーモア ヒロシマ! ノーモア ナガサキ!」だ。

展示を見た大学3年生のジラパーさん(20)は「原爆の被害のことは知らなかったが、すさまじさが伝わってきた。何もかも滅ぼしてしまうような兵器は存在すべきではない。ほかの人にも展

示を見るよう勧めたい」と話した。

「原爆展」はバンコク芸術文化センターで、長崎の原爆の日の9日まで開かれている。(バンコク=貝瀬秋彦)

### 原爆投下の正当性、若い世代は 米学者が語る変化の兆し

朝日新聞デジタルワシントン=渡辺丘 2020年8月8日 13時00分



米国の歴史学者ガー・アルペロビツ

ツ氏は本人提供



原爆投下は第2次世界大戦の終結を早めた——。米国内の通説に対し、「日本への原爆投下は必要なかった」とする著書『原爆投下決断の内幕』を25年前に出版した米国の歴史学者、ガー・アルペロビツ氏(84)は現在も、核兵器について積極的な発言を続けている。核兵器廃絶への道りは遠いまだが、米国では若者を中心に変化の兆しも見られると言う。広島・長崎への原爆投下75年を前に、ウェブ会議システムで話を聞いた。

——米ニューメキシコ州で世界初の核実験が行われてから75年を迎えた7月16日、トランプ米大統領は実験を「偉業」と称賛し、「第2次世界大戦の終結に寄与した」「核抑止力は米国や同盟国に大きな利益をもたらした」とする声明を出しました。

「トランプ政権下で軍拡競争は再び、制御不能に陥ろうとしています。世界中で核戦力は増強されており、過去75年間で核兵器が使われなかったことは幸運に過ぎません。事故や危うい指導者の過ちで、大量破壊が起きる可能性が非常に現実味を帯びています」

——1995年の著書で、日本への原爆投下は軍事的に必要ななかったと指摘しました。

「私の史料研究では、後に大統領になるアイゼンハワー・欧州戦線最高司令官を含めて多くの軍高官は、原爆の使用は全く必要だったと公言しています。そんななか、戦後のソ連の覇権を懸念するバーンス國務長官が外交的な理由から、トルーマン大統領に原爆の使用を進言したのだと、指摘してきました。これは原爆は戦争終結に必要なだったという伝統的な学説に反し、激しい非難を浴びました」

——それから四半世紀が経ち、米社会は変わりましたか。

「オバマ前大統領が16年に広…

残り: 888文字/全文: 1575文字

悲劇の生存者「贖罪に時効はない」 終戦前日、旧満州にソ連が襲撃「葛根廟事件」 <つなぐ 戦後75年>

東京新聞 2020年8月10日 05時50分

太平洋戦争の終戦前日、旧満州（中国東北部）で、避難中の日本人千数百人が旧ソ連軍の戦車隊の襲撃に遭い、多くが犠牲になった「**葛根廟**事件」。わずかに百数十人の生存者の1人、大島満吉さん（84）＝東京都練馬区＝が中心となり、戦後75年に合わせて事件や戦争についての証言集を作った。「自分だけが逃げた、生き残ったという**苛**の念、**贖**の意識に時効はない。風化させたくない」と語る。（奥野斐）

葛根廟事件 1945年8月14日昼、旧満州の葛根廟（現在の中国内モンゴル自治区）に向けて避難する日本人の団が旧ソ連軍の戦車隊に襲われた。自決や避難途中に死亡した人も含め1000人以上が死亡したとされるが、正確な被害実態は分かっていない。犠牲者の多くは女性や子どもだった。生存者は百数十人とみられ、うち30人以上は中国残留孤児となった。

#### ◆ソ連軍の戦車隊が突っ込んできた

「戦車だ、逃げろー」。ソ連軍の戦車隊が突如、日本人の団に突っ込み、人々をなぎ倒し、機銃弾を浴びせた。大島さんはとっさに目の前の自然**壕**に飛び込み、難を逃れた。

1945年8月9日のソ連の対日参戦で、満州西部の街・興安に住む日本人の約半数が、南東約35キロにあるラマ教寺院「葛根廟」に向かって避難をしていた。汽車もなくなり、幼子や荷物を抱えた人々はひたすら大草原を歩いた。避難を始めた初日こそ炊き出しがあったものの、2日目からは食事もままならなかった。葛根廟事件を描いた絵（赤星月人「葛根廟事件邦人遭難の図」天恩山 五百羅漢寺所蔵）

#### ◆「もう駄目だ」死を覚悟

当時国民学校4年だった大島さんは、母と6歳の弟、3歳の妹と列にいた。ソ連兵は壕に逃げた大島さんの真後ろにも来た。「もう駄目だ」。死を覚悟したが、見過ごされた。

辺りは死体や息絶えそうな人、人、人…。避難の列を統率していた在郷軍人が解散を告げ「子どもは親が始末するように」と言った。母が「どうしようかね」とつぶやいた一言が、大島さんには「死ぬしかない」と同意を求めたように感じたという。「幼子を抱え、生きる道がなくなったと思ったんでしょう」

#### ◆「ずっと身内には話せなかった」

母は血まみれで倒れている男性の軍刀を借り、「ごめんね」と言って、目の前で妹ののどを突き、息絶えた妹にハンカチを掛けて拝んだ。「親が子どもを手にかけるなんて理解できないかもしれない。ずっと身内には話せなかったんです」

在郷軍人が刀で自決を補助する列に並んでいた時、はぐれた父と兄に再会。父が母を説得し、その列から抜け出した。列には同級生らもいた。

#### ◆「軍隊は国の機構を守るもの、国民は守れない」

現地の住民にも助けられ、生き永らえた一家は終戦翌年に帰国。守ってくれると思っていた関東軍は民間人より先に避難していたことも知った。「軍隊は国の機構を守るものであって、国民は守れない」と実感した。

生存者や遺族らでつくる「興安街命日会」は、毎年8月14日

に東京都内で慰霊祭を続けてきた。今回の証言集「今に想う」には、生存者5人を含む25人が体験や戦争への思いを寄せた。大島さんは「人間が人間でなくなる、それが戦争。生き残った者として伝えるのが責務だと思っている」とかみしめた。

映画「葛根廟事件の証言」の一場面。この付近で事件は起きた  
◆横浜で10日からドキュメンタリー上映

事件の生存者や関係者12人をインタビューしたドキュメンタリー映画「葛根廟事件の証言」（田上龍一監督）が10～14日午後2時10分から、横浜市中区の「横浜シネマリン」で上映される。コロナ対策により定員54人。電045（341）3180。

#### 【勇気の系譜】杉原千敏さん 命のビザ発給 貫いた信念

産経新聞 2020.8.10 06:00

狂気が世界を覆った時代があった。1939年、ナチス・ドイツのポーランド侵攻をきっかけに始まった2度目の世界大戦。空襲は市民の日常を焼き尽くし、未来ある若者は時に無謀な戦闘を強いられ、戦火に散った。そうした中で起こったユダヤ人へのホロコースト（大量虐殺）。多くが傍観者となったものの、職務よりも人命を優先したのが、日本人外交官の杉原千敏だった。

ユダヤ人への理不尽な憎悪が欧州をむしばみ始めていた40年夏。当時リトアニアの首都だったカウナスの日本領事館で、領事代理の杉原は無心でペンを走らせていた。窓の外には、不安げな目をしたユダヤ人たちが待っていた。

暗闇の中にいたユダヤ人にとって、日本通過ビザだけが一筋の光でした

故郷のポーランドを追われ、領事館を訪れた一人だったイスラエリ・グリーンバーグの息子、ナホム（72）が語る。人種だけを理由に土地から追い出され、命を奪われていったユダヤ人。ドイツの支配が迫る欧州を脱出するしか、生きる道はない。彼らは、極東の島国にいちるの望みを託した。

『ユダヤ人が集まっている』という噂を頼りに父はカウナスを目指した。家族や友人を亡くし、自身も軍隊に捕まり数週間、身動きができなかったこともあったそうです

24歳だったイスラエリは、死線をくぐってたどり着いたカウナスで、後に妻となるロブサと出会う。逃避行は半年を越えていた。ロブサはすでにイスラエルに向かう手はずを整えており、2人は別々の道を逃げなければならなかった。

父は領事館前で夜を明かした。ビザが出てうれしかったと思いますが、不安も大きかった。金も、無事に逃げられる保証も、どこにもなかったのです

ビザが発給されたのは40年8月7日。発給リストの1359番目に名前が記されたイスラエリは、ビザと、ロブサが貴金属などを売って用意した金を握り、ソ連を横断。翌年3月、福井・敦賀に上陸した。

日本は天国でした。世界中が反ユダヤの時代に、日本だけがユダヤ人をケアしてくれた

日本を離れ、イスラエルに着いたのは、ビザを受け取って1年後。再会を果たした2人は結婚し、ナホムら2人の子宝に恵まれ

た。

ビザの話は晩年になって、テレビ局の取材を受けたときに初めて聞かされました。苦労はしましたが、父は幸せでした。スギハラさんのビザは、多くの人の人生を変えたのです

イスラエリは83年、67歳でその生涯を終えた。ビザは今もグリーンバーク家に大切に保管されている。

□ □ □

親戚の店に買い物に来ていた彼と出会ったのは39年12月、ハヌカ（ユダヤ教の祭り）の直前。流暢（りゅうちょう）なロシア語で、笑顔で話しかけてくれました

イスラエル在住のソリー・ガノール（92）は、リトアニアで過ごした12歳のときの記憶を呼び起こす。

自宅でのハヌカのパーティーに招待しました。私が切手集めが趣味だというと「日本の切手をあげるから今度領事館において」と言ってくれて、遊びに行ったこともあります

各地に侵攻するドイツと、参戦の機会をうかがう大国ソ連。欧州の情勢は、刻一刻と変化していた。独ソ間にある小国リトアニアでは、笑顔で食卓を囲める生活がいずれ戦火に見舞われることは明らかだった。

スギハラさんは、戦争がユダヤ人にとって危険な方向に進むことがわかっていました。私の父にも「早く逃げるように」と言ってくれていましたが、ポーランドから逃げてきた人と違い、リトアニアに住むユダヤ人は危機感がなかった

40年9月5日、杉原一家はカウナスを離れる。リトアニアにとどまったガノール家には、死と隣り合わせの過酷な日々が訪れた。ガノールにとって、杉原との時間は、数少ない美しい記憶として刻まれている。

PR 彼はユダヤ人にとってのヒーロー。もう一度だけ会って話したかったが、かなわなかった

ドイツによって命を奪われたユダヤ人は欧州で推計600万人。ドイツの同盟国である日本の外交官として、ユダヤ人にビザを発給するという独自の決断は、国や同盟国に背く行為だった。それでも杉原は、6千人もの命の重みを選んだ。

イスラエルにあるホロコースト記念館「ヤド・バシェム」。ユダヤ人を救った人々を顕彰する森の中に、日本人でただ一人、杉原の名が刻まれている。

□ □ □

杉原は2千枚とも3千枚ともいわれるビザを発給したが、それは外務省の命に背き、たった一人で決断したものだ。

40年7月18日。いつもと変わらぬ曇天の空の下で、多くのユダヤ人の、そして杉原自身の人生を変える日々は始まった。杉原は晩年、手記を残している。

《大部分がヨレヨレの服装をした老若男女で、いろいろの人相の人々が、ザッと100人も公邸の鉄柵に寄り掛かって、こちらに向かって何かを訴えている光景が眼（め）に映った》

杉原は代表5人を領事館に招き入れ、じっと耳を傾けた。着の身着のまま故郷を追われてきたユダヤ人たちは、目的国も、所持金の有無さえ定かではない。発給枚数は数百枚、数千枚となることが予想された。領事代理の裁量を明らかに逸脱していた。

ビザを受けた一人、イスラエル・ヨセフ・ジムリングの三女、ハーヴァ・アペル（66）は語る。

想像もできない恐ろしい運命が迫っていたユダヤ人を、誰もが無視した。彼も無視することだってできたし、そうすれば問題にはならなかった

判断を仰いだ外務省の返答は芳しくなかった。ビザの発給は、一介の外交官が日本の同盟国、ドイツに公然と抗（あらが）うことを意味する。自身や家族に危害が及ぶ可能性さえあった。

カウナスに同行していた杉原の長男、弘樹を父に持つ杉原まどか（53）は思いをはせる。

本人は記憶にないようですが、3歳だった父が「パパが助けてあげるんだよね」と言ったそうです。祖父はクリスチャン。「助けないと神に背く」という思いもあったのでしょうか

《苦慮の揚げ句、私はついに人道主義、博愛精神第一という結論を得た》

7月29日、ビザの発給が始まった。すでにリトアニアがソ連領となり、領事館の閉鎖が決まっていた。

寝食を犠牲にして机に向かった。万年筆は折れ、指にはまめができた。その手はカウナスを離れる瞬間まで止まることはなかった。

「ちうね」と発音しづらかったユダヤ人たちの耳、心には、音読みにした「センポ・スギハラ」の名が刻まれていった。

□ □ □

杉原は後に赴任したチェコスロバキア（当時）のプラハでも、ユダヤ人にビザを発給している。人道主義、博愛精神。言葉にするのは簡単だが、実行に移すのは容易ではない。

事実、杉原には過酷な戦後が待ち受けていた。欧州各地を転々とし、戦後の混乱をくぐりぬけて帰国すると、外務省から退職を通告される。人員整理の一環とされたが、外務省に背いてのビザ発給が影響していたのは明白だった。

国の命令に背いた行動が外交官として問題であること、自分は後々、大変な人生になるかもしれないこと、祖父はすべてを覚悟していたと思います

PR リトアニアでの出来事は黙して語らず、外交の表舞台から姿を消した杉原。商社マンとして単身ロシアに渡った。

□ □ □

モスクワと日本を往復する生活を送る「センポ・スギハラ」に、光を当てたのは、ユダヤ人だった。戦後、ユダヤ国家として誕生したイスラエル。建国間もない国の中枢を担っていた人々の中には、杉原のビザを手生き延びた「サバイバー（生存者）」たちがいた。69年、イスラエルに招かれた杉原を撮影した写真が残っている。握手を交わすのは、同国の宗教大臣となっていたゾラフ・バルハフティック。あの日、カウナスで面会した一人だった。

祖父は彼らの先の人生に希望を託したんだと思います。生き延びた人が各地で活躍する、そんな未来を望んだ。祖父がまいた種が、実を結んだんです

杉原は昭和61年、86歳でこの世を去った。「人のために尽くしたい」が晩年までの口癖だった。まどかはいま、杉原を顕彰するNPOの副理事長として、世界中のサバイバーや子孫と交流を続ける。

社会に流されることなく、自分が正しいと思ったことをした。訪ねてきてくれるサバイバーや子孫と会うたびに、祖父がしたこととは間違いじゃなかったと感じます

80年前、手書きのビザに込められた思いは、世界各地で新たな人生を紡ぐその子孫たちに受け継がれている。

◇

杉原千畝(すぎはら・ちうね) 1900(明治33)年、岐阜県生まれ。1919(大正8)年に外務省の公費留学生として満州に渡り、ロシア語を習得。外交官となり、リトアニアの領事代理だった40年夏、「命のビザ」を発給して多くのユダヤ人の命を救った。その功績から85年にイスラエルから「ヤド・ベン・ツェム賞(諸国民の中の正義の人賞)」を受けた。86(昭和61)年、86歳で死去した。戦後は外務省を追われたが、日本政府は平成12年、公式に杉原の名誉を回復した。

=敬称略

(鈴木俊輔)

## 原発の安全対策に5.2兆円 最安のはずが膨れるコスト

朝日新聞デジタル 桑原紀彦、小坪遊 2020年8月9日 5時00分



原発の安全対策費の推移

東京電力福島第一原発事故後の原発の安全対策費が、電力11社の合計で少なくとも5.2兆円にのぼることが朝日新聞の調べでわかった。新規規制基準の施行から7年。テロ対策施設の費用を軸になお増え続けている。まだ費用を計上できていない原発も多く、安全対策費の総額は今後さらに増える見込みだ。電源別の発電コストで原発を最安とした政府の評価の前提が揺らいでいる。

朝日新聞は2013年から、事故後に必要になった安全対策費の最新の見積額を、原発を抱える各社に尋ねてきた。再稼働に向けた審査を申請した原発は計27基。地震や津波、火災などへの備えや過酷事故対策などの費用が含まれる。今年7月時点の総額は少なくとも5兆2376億円で、13年の5倍超になっている。

前年からの増加分は約1600億円。大半は、新基準で設置を義務づけられたテロ対策施設の費用だ。日本原子力発電は東海第二(茨城県)で610億円かかることを初めて明らかにした。関西電力は福井県内の2原発3基で計約430億円を追加した。原子力規制委員会の審査などを通じ、設計や工事の見直しが必要になったためという。

テロ対策施設は、航空機が衝突するようなテロ攻撃を受けても遠隔で原子炉を制御するためのもの。費用が明らかになった8原発の合計で1兆2100億円にのぼる。九州電力川内1、2号機(鹿児島県)などでは設置期限に完成が間に合わずに基準不適合となり、今年3月以降、原発の運転停止に追い込まれている。

一方、北海道、東北、中部、北…

残り: 383文字/全文: 1004文字

## 与党、国会召集重ねて拒否 野党、首相説明を要求

産経新聞 2020.8.9 13:57

与野党幹部は9日のNHK番組で、新型コロナウイルス感染症対策をめぐり議論した。自民党の稲田朋美幹事長代行は、憲法53条に基づく野党の臨時国会の早期開会要求に対し「(召集までの)合理的な期間を判断するのは内閣だ」と事実上拒否した。立憲民主党の福山哲郎幹事長は県境をまたぐ移動や休業要請に関し、安倍晋三首相が国会で説明すべきだと訴えた。

福山氏は「統治に責任を持たず、国民に説明しないならば、内閣は一刻も早く総辞職すべきだ」と批判した。8月中旬以降に、参院側でも憲法に基づく臨時国会召集の要求書を提出する方向で調整するとした。共産党の小池晃書記局長も「召集要求に応じないのは憲法違反だ」と非難した。

## 与野党 臨時国会の召集めぐり議論 新型コロナ対策などで

NHK 2020年8月9日 12時18分



新型コロナウイルスの感染が広がる中、NHKの「日曜討論」で、野党側が安倍総理大臣に対する質疑を行う必要があるとして、臨時国会を早期に召集するよう求めたのに対し、与党側は当面は閉会中審査で議論すべきだという考えを示しました。



自民党の稲田幹事長代行は「医療崩壊を招かないよう、きめこまやかに対応しつつ、命となりわいをしっかり守っていくことが重要だ。安倍総理大臣が国会に出席すべきだと言うが、西村経済再生担当大臣が記者会見し、国会でもしっかり説明しており、今後の閉会中審査も合意されている。臨時国会の召集時期の判断は内閣にあり、与野党で何をどうするのか、しっかり議論して整理したうえで対応になる」と述べました。



公明党の斉藤幹事長は「日本とイギリスの経済連携協定は国会で議論して承認する必要がある。新型コロナウイルス対策の特別措置法も十分に議論しなければならないが、与野党である程度の合意ができないと国会を開く準備ができない。閉会中審査は大きな意義がある」と述べました。



立憲民主党の福山幹事長は「安倍総理大臣は国会に出てこず、臨時国会の召集要求にも応じていない。安倍政権の無為無策が続けば感染が拡大するに決まっている。日本の統治に責任を持たず、

国民に説明しないならば、一刻も早く総辞職すべきだ。なぜ臨時国会を開かないのか全く理解できない」と述べました。



国民民主党の泉政務調査会長は「布マスクの配布や『Go Toキャンペーン』の前倒しなど、官邸が周りの言うことを聞かないまま決めた施策はだいたい失敗している。国会議員がさまざまな声を持ち寄って議論する場を一刻も早く作るべきで、国会を開いてほしい」と述べました。



日本維新の会の馬場幹事長は「今の特別措置法には法的な措置が取れない部分がたくさんあるので、法改正を議論していきたい。また、前線で命をかけて働いている医療関係者への支援が具体的に必要で、こういった議論をどんどんすべきだ」と述べました。



共産党の小池書記局長は「国会議員にも総理大臣にも夏休みはならない。野党が提出したのは憲法に基づく臨時国会の開会要求で、これに応じないのは憲法違反だ。速やかに開いて、与野党超えて感染拡大防止の知恵を出し合う時だ」と述べました。

臨時国会召集は10月末以降か 日英合意後、国対委員長が示唆  
2020/8/8 18:01 (JST)共同通信社



鹿児島市内で開かれた自民党会合で発言する  
森山裕国対委員長(右から2人目) = 8日午後

自民党の森山裕国対委員長は8日、野党が求める臨時国会に関し、召集は10月末以降となる可能性を示唆した。日本と英国が新たな貿易協定交渉の大筋合意を8月末に目指す方針の確認を受け「合意できれば国会を開き、来年1月からの関税に影響を与えることのない対応が必要になる」と述べた。開会時期については「批准書を作るのに(大筋合意から)2カ月以上はかかる」と述べた。

鹿児島市内で開かれた党会合と記者会見で語った。森山氏は「審議する法案がないのに国会を開くわけにはいかない」と述べ、早期開催は難しいとの考えを重ねて示した。

**野党「無為無策、説明なしなら総辞職を」 臨時国会要求**  
朝日新聞デジタル 2020年8月9日 20時45分



立憲民主党の福山哲郎幹事長



新型コロナウイルスの感染が再び全国で広がるなか、野党側は9日のNHKの討論番組で、対策を議論する臨時国会の早期召集を改めて求めた。立憲民主党の福山哲郎幹事長は、憲法53条による召集要求を参院側でも行う方針を表明。与党側は早期召集に否定的な考えを示した。

立憲、国民民主、共産、社民の野党4党などは先月末、臨時国会の召集を内閣に求める要求書を衆院議長に提出。自民党は今日4日、早期の召集に応じない方針を野党側に伝えた。

福山氏は政権が召集に応じないことなどを批判し、「無為無策を続けるなら、そして、国民に説明しないならば、一刻も早く総辞職して頂くべきだ」と語った。共産の小池晃書記局長も「憲法に基づく開会要求に応じないのは憲法違反。国民の疑問に答えてもらわないといけない」と指摘した。対策をめぐっては、野党から休業要請に伴う補償のほか、関連する財源措置や特別措置法の改正を求める声が相次いだ。

自民党の稲田朋美幹事長代行は、要求から召集までの「合理的な期間」を判断するのは内閣としたうえで、「与野党の間でも議決が必要なものについて、一体何をどうするのかを議論し、整理をしたうえでのことになる」と述べた。

**国民・玉木氏の合流意欲に疑問 立憲・福山氏「やる気ないのか」**  
時事通信 2020年08月09日 17時11分

立憲民主党の福山哲郎幹事長は9日、国民民主党との合流をめぐり、同党の玉木雄一郎代表が新党名を決める投票方式に難色を示したことについて「あまり細かいことを言うと、やる気がないと思われるも仕方がない」と疑問を呈した。東京都内で記者団の質問に答えた。

福山氏は「(合流に向けた)課題は全て整理できた。国民民主党が『了』とするかどうかにかかっている」と強調した。

これに対し、玉木氏は長崎県大村市で記者団に、「やる気がある、ないではない」と反論。その上で「最終的には党首会談で話し合っ合意を得たい」と述べ、立憲の枝野幸男代表との会談を重ねて求めた。

**立・国迷走、いらだつ連合 仲介努力も決め手欠き**  
時事通信 2020年08月09日 06時46分

立憲民主党と国民民主党による合流協議の迷走に対し、双方の最大の支持母体である連合がいら立ちを強めている。次期衆院選を見据え、旧民主党勢力の再結集に期待は強い。しかし、両党間の溝は深く、仲介努力を試みるものの決め手を欠くのが実情だ。



国民民主党との合流協議をめぐる立憲民主党の福山幹事長は、新党の名称の決め方など課題は整理できたとして、国民民主党に対し、合流を決断するよう求めました。

両党の幹事長による合流協議は、合流する場合に結成する新党の名称の決め方をめぐって調整が難航していましたが、先週、立憲民主党が代表選挙と併せて国会議員による投票で決めるとする新たな案を示しました。

立憲民主党の福山幹事長は都内で記者団に対し、「課題になっているものはすべて整理できたと思っている。あとは国民民主党の決断一つだ」と述べ、合流を決断するよう求めました。

また、国民民主党の玉木代表が求める政策のすり合わせについては「すでに幹事長間で整理し終わった話だ。国民民主党は玉木氏個人の『私党（しとう）』ではない」としたうえで、一兩日中に新党の綱領などをまとめたいという考えを示しました。

一方、国民民主党の泉政務調査会長は記者団に対し、立憲民主党の新たな案について「課題を一つクリアしたと考えており、一歩前進だ。重く受け止めた」と述べました。

そのうえで、両党の政策について「憲法と消費税の方向性は一致している。あとは確定的なものが作れるかという段階に入っていると思う」と述べました。

立民 逢坂政調会長「条件は99%整いつつある」

立憲民主党の逢坂政務調査会長は北海道北見市で記者団に対し、「新党の綱領などがまとめれば次のステップに進むのが当然のことだ。条件は99%整いつつある」と述べ、国民民主党との合流をめぐる協議で早期に結論を得たいという考えを示しました。そのうえで、「新たな条件を出したり、ゴールを変えたりすることがあれば、『国民民主党の代表は合流したくないんだ』ということにしか思えない」と述べ、国民民主党の玉木代表に合流を決断するよう求めました。

石破氏、コロナ特措法改正を 強制力は補償とセットで  
朝日新聞デジタル松山尚幹 2020年8月8日 22時30分



講演する自民党の石破茂元幹事長=2020年

8月8日午後、長野県喬木村、松山尚幹撮影

自民党の石破茂元幹事長は8日、新型コロナウイルス対応の特別措置法について、「（コロナ対策で）経済がダメージを受けることが多い。補償をかみ合わせながらの強制力が特措法の改正の時に必須だ」と述べた。自粛要請に応じなかった店に罰則を科すなどの強制力を導入する場合、補償制度を合わせて検討すべきだとの考えを示したものだ。

石破氏は長野県喬木村で記者団の取材に答えた。「全国の都道府県、市区町村のどこで何が必要か、もう少しきめ細かく（対応）

連合の相原康伸事務局長は7日、立憲の福山哲郎、国民の平野博文両幹事長とともに、新型コロナウイルス感染収束後の社会像を三者合同でまとめるための協議に出席。この後、記者団に「合流の土壌を補強できればいい」と強調した。

協議は連合が6月中旬に呼び掛けてスタートした。当時は早期の衆院解散・総選挙も取り沙汰されていた時期。一致しやすいテーマで話し合いの場をつくるのが狙いだ。これに先立ち、連合は両党政調会長との政策協議も始めた。

だが、新党名やその決め方で両党の交渉はもめ、憲法改正や消費税減税に関する立場の違いも難航要因に加わった。「理念を一致させる程度で合流はできない」。両党にはこんな声が根強く、強硬派の国民幹部は「合流は政治の話だ。連合は関係ない」と言い切る。混迷ぶりに連合幹部は「国民が見ていることを自覚しろ」と怒りを隠さない。

とはいえ、連合も強く踏み込めない事情を抱える。2017年の旧希望の党結党の際、神津里季生会長は当時の民進党の前原誠司代表と小池百合子東京都知事の会談に同席するなど深く関与。その経緯から民進党分裂の「戦犯」の一人に挙げられたことがトラウマになっている。

昨年の参院選で連合は傘下労組の「股裂き」に苦しみ、国民民主党から立てた組織内候補5人のうち2人が落選する憂き目に遭った。先の見通せない現状に、幹部は「お盆を過ぎたら合流話は下火になる」と焦りの色を浮かべた。

立民との合流の可否 新党の綱領など見極め判断 国民 玉木代表

NHK2020年8月9日 17時21分



立憲民主党との合流協議をめぐる、国民民主党の玉木代表は、両党の幹事長らが作成する新党の綱領などを見極めて合流の可否を判断し、政策面での課題が残る場合は、党首会談で結論を得たいという考えを示しました。

続きを読む

国民民主党の玉木代表は、長崎県大村市で記者団の取材に応じ、国会議員による投票で党名を決めるとする立憲民主党の案について、「党名の投票は党の根幹に関わるので、記名か無記名かなどを確認したい」と述べました。

そのうえで、「現在、幹事長と政策責任者が新党の綱領など最終的な詰めをしており、その成果を見たらうでの判断になる。溝が埋まらないところや、残った課題があれば、代表間で決めていくことになるかと思う」と述べ、新党の綱領などを見極めて合流の可否を判断し、政策面での課題が残る場合は、党首会談で結論を得たいという考えを示しました。

そして、具体的な政策について「新型コロナウイルスの感染拡大で落ち込んだ経済を回復させるためには、時限的な消費税の減税が必要で、ぜひ一致させたい」と述べました。

合流協議 立民 福山幹事長「課題整理できた」国民に決断求める

できるように法律の仕組みを改める必要がある」とも語った。

石破氏はこの日、昨年10月に亡くなった吉田博美元参院幹事長の初盆に合わせ、吉田氏の地元・長野県を訪れた。

吉田氏は2018年の総裁選で参院竹下派を石破氏支持でまとめた。同県松川町にある吉田氏の事務所を訪れた石破氏はその場で手を合わせ、故人をしのだ。

石破氏は地元有権者らを前に講演。「吉田先生はよく『汗は自分でかきましょ、手柄は人にあげましょ、そして責任は自分でとりましょ』と言っていた」と振り返り、「非常に稀有(けう)な政治家だった」と話した。(松山尚幹)

## 菅官房長官、ポスト安倍めぐり石破氏に異例の言及

朝日新聞デジタル安倍龍太郎 2020年8月8日 0時18分



記者会見に臨む菅義偉官房長官=2020年8月7日午前11時14分、岩下毅撮影

菅義偉官房長官は7日夜、インターネット番組に出演し、「ポスト安倍」に意欲を示している石破茂元幹事長について、「そういう評価はされているのではないかと述べ、次の総裁候補の一人だと認識を示した。菅氏が特定の議員の名を挙げ、ポスト安倍に言及するのは異例。

ジャーナリストの櫻井よしこ氏との対談番組で語った。菅氏は、櫻井氏からポスト安倍候補として、石破氏や岸田文雄政調会長、河野太郎防衛相、小泉進次郎環境相、茂木敏充外相らについての評価を問われた。

菅氏は「私の立場で個別のことを発言するのは控える」「みなさん、その可能性がある人だと思っている」と応じた。ただ、石破氏については「(野党時代に)安倍総裁、石破幹事長、菅幹事長代行で仕事をしたことがある」と述べたうえで、「そういう評価はされているのではないかと」言及した。一方、自身の意欲については「考えていない」と否定した。

また櫻井氏が、菅氏を含めた閣僚らが「アベノマスク」と揶揄(やゆ)されている政府配布の布マスクを着用していないこと指摘すると、「私、布マスクって使っていないんです。暑そうで」と説明。櫻井氏から布マスクも使って欲しいと促されると、「はい」と述べた。(安倍龍太郎)

## 首相記者会見、2問で終了 複数の追加質問受け付けず

2020/8/9 15:54 (JST)8/9 18:59 (JST)updated 共同通信社



安倍晋三首相

安倍晋三首相が9日に長崎市で行った記者会見は質問2問で終了した。地元記者と同行記者から1問ずつ質問を受ける予定通りとなった。会場から「まだ質問があります」との声が複数上がったが、追加は受け付けず、首相はそのまま立ち去った。

会見時間は約18分間。新型コロナウイルスの国内感染状況に対する現状認識と対応方針を巡る説明に約10分を費やした。

6日の広島市での会見では、追加質問で会見を長期間実施しなかった理由を問われ「節目、節目において会見を考えている」と答えた。

## 首相また会見18分、質問二つで終了 追加受けず 帰省「一律自粛求めず」

毎日新聞 2020年8月9日 17時11分(最終更新 8月9日 19時39分)



長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典であいさつする安倍晋三首相＝長崎市の平和公園で2020年8月9日午前11時28分、徳野仁子撮影

安倍晋三首相は9日、長崎市で開かれた平和祈念式典に出席後、長崎市内で記者会見した。新型コロナウイルスの感染が全国で広がる中、お盆の帰省については「政府として一律の自粛を求めるものではない」と改めて強調。3密(密閉、密集、密接)を避け、大人数での会食を控えるなど、高齢者への感染につながらないように重ねて注意を呼びかけた。

首相は、新型コロナの重症者数や病床の確保数など4月とは状況が異なることを改めて訴え、「再び緊急事態宣言を出す事態にならないよう、国民の健康と命と暮らし、雇用を守り抜いていくために必要な対応を速やかに実行していく」と語った。医療機関の経営悪化が問題視されていることについては「特に新型コロナ感染者の患者への治療に当たっている医療機関の実情を踏まえつつ、必要に応じてさらなる支援も検討したい」と述べた。新型インフルエンザ等対策特別措置法の再改正に関しては、「事態が収束した後は特措法がより良い仕組み、制度になるようしっかりと検討していく」と述べるにとどめた。

会見は、長崎市での平和祈念式典出席後に例年開いているもの。予定通りに長崎市政記者クラブと内閣記者会の幹事社質問を1問ずつ計2問受けただけで、追加質問を求める声が上がると、約18分で終了した。【佐野格】

## 「なんかおかしいよね」 たまる地方の不满、党員も減少

朝日新聞デジタル野平悠一、松山尚幹 2020年8月8日 5時00分



デザイン・加藤啓太郎

安倍晋三首相の自民党総裁としての任期の終わりが見え、自民党は節目を迎えています。「1強政治」を支えてきた党の変容と実像を追う連載「自民党 長期政権の果てに」。最終回となる第6回は、「国民政党」を標榜(ひょうぼう)する党を支えてきた地方の疲弊を取り上げます。

総力結集 120万党员達成へ——。真っ赤な下地に白抜き文字で党员獲得を呼びかけるポスターがいたる所に貼られた東京・永田町の自民党本部。その中枢にある党幹事長室に8月3日、20人を超える議員が次々と訪れた。

催されていたのは、2018年の党员獲得数上位者への表彰式。「これからもよろしくお願ひします」。幹事長の二階俊博は、国会対策委員長森山裕らベテランから当選3回の若手まで、集った一人ひとりに深々と頭を下げて「金一封」を手渡した。



自民党本部に貼られている「総力結集」を掲げたポスター=8月7日、自民党本部

ただ、2年連続で表彰された若手の口から漏れたのは、喜びではなく現状への不満だった。「地方、党员があつてこそこの自民党。それが分かっていない国会議員が多すぎる」

党员は、総裁選をはじめとする党の活動に参加できる資格だ。一般党员は年4千円を払う必要があり、いざ選挙となれば運動の実動部隊にもなる。その数は、昨年108万6千人余り。前年比1・3%減となり、2012年末に発足した第2次安倍政権で初の減少に転じた。



党员数は、党の足腰の強さを測る指標の一つとなる。1991年には546・5万人を数えたこともある党员を一人でも増やすことが、二階の使命でもある。今年3月の両院議員総会では「総力を結集し数字を回復し、120万人の目標に向けて頑張ろう」と意気込みを語った。

なぜ、党员数が減少に転じたの…  
 残り：1394文字／全文：2074文字

打ちでの小づちで「お肉券」？ 要望合戦、迷走に拍車も  
 朝日新聞デジタル 西村圭史 2020年8月7日 5時00分



デザイン・加藤啓太郎

安倍晋三首相の自民党総裁としての任期の終わりが見え、自民党は節目を迎えています。「1強政治」を支えてきた党の変容と実像を追う連載「自民党 長期政権の果てに」。第5回は、新型コロナ対策で迷走が目立った、党の政策論議のいまを取り上げます。

5月20日午後、東京・永田町の自民党本部は異様な熱気に包まれていた。

数十兆円に及ぶ第2次補正予算案の政府への提言が、この日まとめられることになっていた。議論の会場に詰めかけた議員は100人超。「ターゲットを絞って議論を行わなければならない」。政調会長の岸田文雄は冒頭にそう釘を刺したが、出席者の多くは聞く耳を持たなかった。



新型コロナウイルス対策を盛り込む補正予算案の議論をした自民党政調の会議=2020年5月20日午後、自民党本部、西村圭史撮影

「100兆円の予算が必要だ」「消費税を減税すべきだ」……。我も我もと手を挙げる議員の発言が続くこと計4時間。算定根拠がないままに金額が飛び交い、政策議論というより自己アピールのような主張も目立った。大蔵官僚出身で元経済産業相の宮沢洋一は、その様子に眉をひそめた。「財源を顧みない乱暴な議論だ。消費税を上げるのに、どれだけ汗を流したかを知らないのか」

この6日前、首相の安倍晋三は「もう一段の強力な対策が必要」と、2次補正予算案の編成を指示した。1次補正では、混乱の末に「10万円の一律給付」などを盛り込んだが、執行の遅さなどが問題になっていた。「またこけたら選挙で負ける」。党内は焦りが充満していた。

それから3週間後、補正予算と…  
 残り：1442文字／全文：2028文字

芸能人のSNSに「野党の言いなりだ」鈍る世論への感度  
 朝日新聞デジタル 清宮涼 2020年8月6日 5時00分



デザイン・加藤啓太郎

安倍晋三首相の自民党総裁としての任期の終わりが見え、自民党は節目を迎えています。「1強政治」を支えてきた党の変容と実像を追う連載「自民党 長期政権の果てに」。第4回は、他党に先駆け講じてきた世論への対策で、守勢に回る現状を描きます。

通常国会の閉会が迫る6月中旬、自民党農林部会の役員らが党本部の一室にひそかに集まった。テーマは、政府が国会に提出しながら成立の見通しが立たない種苗法改正案だった。

「柴咲コウさんと江藤拓農林水産相を対談させたらいいじゃないか」。出席者から、改正案への懸念をツイッターに投じた俳優の柴咲コウに大臣自ら説明にあたり、政府・与党の立場をアピールすべきだとの声が上がった。



柴咲コウさん(左)は昨年末、環境省の「環境特別広報大使」として小泉進次郎環境相と対談した=2019年12月20日、東京都千代田区、松尾一郎撮影

ブランド農産品の海外流出を防ごうと、米や野菜などの種や苗を開発した権利を守るルールを強化する同法改正案。衆院で審議入りする前の4月末、柴咲は「このままでは日本の農家さんが窮地に立たされてしまいます」とツイートした。改正案にはかたて、権利を持つ大企業が種苗の値段をつり上げれば、「農家の負担が増える」との批判が出ていた。

柴咲の投稿で種苗法への注目度…  
残り：1613文字／全文：2076文字

### 選挙の講師は元民主党、その教えとは 常勝の裏に危機感

朝日新聞デジタル河合達郎 2020年8月5日 5時00分



デザイン・加藤啓太郎

安倍晋三首相の自民党総裁としての任期の終わりが見え、自民党は節目を迎えています。「1 強政治」を支えてきた党の変容と実像を追う連載「自民党 長期政権の果てに」。第3回は、常勝を続ける選挙の足元で広がるもろさを取り上げます。

7月20日、茨城県土浦市のホテル。ここを地盤とする自民党衆院議員の国光文乃（あやの）（41・当選1回）は、支援者や事務所関係者とともに、党本部が派遣した講師の講義に耳を傾けていた。テーマは「選挙対策」だった。

「風がない状況でも勝てなければいけない」。後援会の作り方などを2時間にわたって伝授したのは、旧民主党から、2015年に自民党に「移籍」した衆院議員、山口壮（兵庫12区、当選6回）だった。

残り：1686文字／全文：1999文字

### コロナでもパーティー「こんな時期に」影響力落とす派閥

朝日新聞デジタル笹井継夫 2020年8月4日 5時00分



デザイン・加藤啓太郎

安倍晋三首相の自民党総裁としての任期の終わりが見え、自民党は節目を迎えています。「1 強政治」を支えてきた党の変容と実像を追う連載「自民党 長期政権の果てに」。第2回は、自民党政治の「代名詞」ともいえる派閥の虚と実を描きます。

7月16日夜、東京・紀尾井町のホテル。自民党・麻生派は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で延期していた政治資金パーティーを、党内7派閥の先陣を切って開いた。副総理兼財務相の麻生太郎は「政権のど真ん中で引き続き精進したい」と声を張り上げた。



麻生派のパーティーでは安倍晋三首相のビデオメ

ッセージが流された=2020年7月16日午後6時57分、東京都千代田区、藤原伸雄撮影

麻生派以外の各派は、パーティーを9～10月に再設定した。麻生が早期開催にこだわったのは、この夏以降の政治の動きに備えるためだった。

麻生は、首相の安倍晋三に早期の衆院解散を進言しており、麻生派幹部は「いつ総選挙があるか分からない。その弾を集めなければならない」と選挙資金の確保を急ぐ。次の総裁選に向け、結束を維持する狙いもある。同派は最近、期数ごとに会合を開いて、麻生側近らが「いずれ会長推薦を示したい」という麻生の指示を伝えている。

ただ、中堅・若手には冷ややか…  
残り：1507文字／全文：1962文字

### 幹事長人事は「敵を味方に」 石破氏遠ざけ、消えた緊張

朝日新聞デジタル石井潤一郎、西村圭史 2020年8月3日 5時00分



デザイン・加藤啓太郎

安倍晋三首相の自民党総裁としての任期の終わりが見え、自民党は節目を迎えています。「1 強政治」を支えてきた党の変容と実像を追う連載「自民党 長期政権の果てに」。初回は、総裁に次ぐナンバー2である3人の幹事長から、党の変遷を読み解きます。

7月30日夜、東京・丸の内の日本料理店。首相の安倍晋三は、長期政権を支える自民党政調会長の岸田文雄の労をねぎらっていた。安倍はステーキ、岸田は鶏のショウガ焼きを注文。ビールとウイスキーの水割りを酌み交わしながらの食事の話題は、党役員人事にも及んだ。

「秋は人事ですよ」。岸田は安倍に水を向けると、念願の幹事長就任への意欲を伝えた。2人だけの会は2時間近くに及んだが、安倍は人事のタイミングや具体的な人名を挙げることはなかった。岸田は安倍の心中を推し量る。「ぎりぎりまで迷ってお考えになるんだろう」



自民党の「新型コロナウイルス感染症対策に関する

提言」を、岸田文雄政調会長(左)から受け取る安倍晋三首相=2020年7月1日午後、首相官邸、岩下毅撮影

外相など要職を歴任した岸田だが、党ナンバー2の幹事長の座には、ほかの役職とは違う重みがあった。選挙や人事、資金の差配などで絶大な権限を握り、首相への登竜門とされてきたからだ。かつて党内でしのぎを削り「三角大福中(さんかくたいふくちゅう)」と呼ばれた三木武夫、田中角栄、大平正芳、福田赳夫、中曽根康弘は、いずれも幹事長を経て首相となった。

長期政権下ではとりわけ、幹事長ポストは党のリーダー育成に大きな意味を持った。佐藤栄作は田中、福田を競わせるように起用し、中曽根は後に後継指名する竹下登を据えた。安倍も 2003 年、当時の首相小泉純一郎から当選 3 回で幹事長に抜擢（ぼってき）され、その後のステップにつなげた。



佐藤栄作政権下で「ポスト佐藤」を競った 2 人、ゴルフ場で握手する福田赳夫蔵相（左）と田中角栄自民党幹事長だが、2012 年末からの連続在職日数が 8 月下旬に歴代 1 位となる安倍が起用した 3 人の幹事長に、後継育成へのこだわりはうかがえない。自らの地位を脅かす存在は遠ざけ、総裁候補とみなされない重鎮を据えた。「首相にとって党ナンバー 2 は、足元を安定させるための装置」。安倍の出身派閥・細田派幹部はそう言い切る。

政権奪還当初は「ベストメンバーで」

第 2 次安倍政権で最初に幹事長に就いた石破茂は 7 月 22 日未明のフジテレビのトーク番組で、こんな分析を披露した。

「いちいち謝り、非を認めたら…」

## コロナ下、10月衆院選は困難 自民・下村博文選対委員長インタビュー

時事通信 2020 年 08 月 09 日 06 時 47 分



インタビューに答える自民党の下村博文選対委員長＝4 日、東京・永田町の同党本部

自民党の下村博文選対委員長は時事通信のインタビューに応じ、新型コロナウイルスの感染者が急増している中、安倍晋三首相が衆院を解散し、10月の総選挙に持ち込むのは困難との認識を示した。主なやりとりは次の通り。

—首相が衆院を解散し、10月に総選挙が行われるとの見方がある。

コロナ次第だ。今のような感染拡大が続く中で解散するべきではないとの意見もある。収束に向かって国民の不安感が解消に向かわないと解散は難しい。現段階のコロナの状況で解散を考えるときではない。首相が決めることだが、自民党、日本にとって一番いいタイミングを考えているのではないかと。

—コロナ対策の特別措置法改正について。

わが国の憲法には緊急事態条項が入っていない。緊急時における対応をスムーズにできるようにするため法改正だけでなく、憲法に緊急事態条項を盛り込むことも議論するべきだ。

—9月には首相による最後の自民党役員人事・内閣改造が予想される。

国民から見てこの内閣なら期待できるという意味での継続性、新たな期待感をどう組み合わせるか。首相のこれからの判断だ。

—次期総裁選への意欲は。

私は首相出身派閥（細田派）の所属だ。首相を支えることが最大の仕事だ。解散時期によっては首相の自民党総裁連続 4 選もあるかもしれない。私が総裁選について言及すると首相の選択肢を否定することになる。今そういうことを言うべきではない。

—首相は 4 選に前向きか。

首相は今のところ（来年 9 月の）任期を延長してでもぜひやりたいとの思いは持っていないと思う。

—ポスト安倍に求められる資質は。

この先の日本に明るい展望があるのか不安に思っている国民が圧倒的に多い。この国を立て直していくために何をすべきか明確に打ち出して実行できることがリーダーとして問われる。

—新たな国家ビジョンを考える議連の会長に就いた。

今後、コロナそのものがなくなることはないだろう。ピンチをチャンスと捉えて新しい国家ビジョンをつくっていかないといけない。8 月 27 日に中間報告、年内をめどに提言書をまとめる。

## 早期解散に重ねて慎重 山口公明代表

時事通信 2020 年 08 月 09 日 20 時 08 分

公明党の山口那津男代表は 9 日放送の BS 朝日の番組で、早期の衆院解散に慎重な考えを重ねて示した。新型コロナウイルスや災害への対策が優先課題と指摘した上で、「コロナで現職議員も地元になかなか入れない。有権者との対話がないところで選挙はやれない」と述べた。

## 公明代表、首相会見求める 「国民不安にメッセージ」

2020/8/9 21:29 (JST)8/9 21:41 (JST)updated 共同通信社

公明党の山口那津男代表は 9 日放送の BS 朝日番組で、新型コロナウイルスの感染再拡大を巡る国民の不安を抑えるため、安倍晋三首相が積極的に記者会見を開くべきだとの考えを示した。

「定期的にといった固い縛りではなく、国民が不安に思い、首相のメッセージを聞きたい時にはきちんと開いてもらった方がいい」と語った。

早期の衆院解散・総選挙についても「地元に入れない。有権者との対話がないところで、選挙はしないだろう」と重ねて慎重な姿勢を示した。

敵基地攻撃能力の保有に関しては「先制攻撃なのか自衛のための攻撃なのか、紙一重で区別が付かない」として改めて否定的な意向を表明した。

## 公明、大量動員選挙から転換？小選挙区に「全国後援会」

朝日新聞デジタル大久保貴裕 2020 年 8 月 8 日 8 時 00 分



明党 小久保 公明党の齊藤鉄夫幹事長

公明党は、次期衆院選の小選挙区に擁立する候補 9 人にそれ

ぞれ「全国後援会（通称「進む会）」を新設した。コロナ禍で全国から支持者が選挙区に駆け付ける大量動員戦術が困難となり、後援会を通じて SNS 上にネットワークを作り、対面の戸別訪問に代わる新たな集票活動を模索する。

同党は7月2日、次の衆院選で議席獲得をめざす小選挙区の公認を発表し、全9選挙区の候補者が出そろった。これらの選挙区を「党勢拡大重点地域」と位置づけ、それぞれに全国後援会を立ち上げた。斉藤鉄夫幹事長は7日の記者会見で「新しい時代の党勢拡大方法、選挙運動のあり方を検討しており、一つの方法を提示した」と話した。

7月中旬には、支持母体・創価学会の会員に対して、全国後援会への入会を要請。入会申込書には自身の名前などに加え、友人・知人の名前や住所を書き込める欄を設けた。後援会に登録されると、党側から無料通信アプリ LINE や郵便などを通じて、候補者の演説会情報や政策集などを送るという。

公明党はこれまで、全国の学会…

### 「60」は首相の推薦者 桜を見る会、招待者名簿を初開示 06年開催

毎日新聞 2020年8月8日 17時32分(最終更新 8月8日 20時14分)



初めて開示された2006年の「桜を見る会招待者名簿」。

当時の安倍晋三官房長官には国務大臣として20番の整理番号が付けられている＝東京都千代田区の国立公文書館で2020年8月8日、手塚耕一郎撮影

2006年に開催された首相主催「桜を見る会」の招待者名簿が8日、国立公文書館で初めて開示された。名簿には首相の推薦者を示す整理番号の区分が「60」と記されており、マルチ商法を展開して経営破綻した「ジャパンライフ」の山口隆祥元会長が15年、招待状を受け取ったとされる「60」の区分が首相枠だった可能性が改めて高まった。

開示されたのは、小泉純一郎政権だった06年の桜を見る会のために内閣府が作成した「招待者名簿」（約180ページ）。10年に内閣府から公文書館に移管されたもので、公文書館では他の年の招待者名簿は確認できていないという。

同時に開示された「特別招待者名簿・著名人名簿」「外国人招待者名簿」とあわせ、計約1万人の氏名、整理番号、役職、現住所などが記されている。



初めて開示された2006年の「桜を見る会招待者名簿」。

一般人の招待者は黒塗りとなっているが、首相枠には60番、官房長官枠には65番の整理番号が付けられていることが分かる＝東京都千代田区の国立公文書館で

2020年8月8日、手塚耕一郎撮影

しんぶん赤旗 2020年8月10日(月)

### 「安倍さん、菅さんと写真とれる立派な人がやってる」 悪質マルチ被害が拡大 IR汚職で逮捕の元社長 政権中枢と接点

衆院議員の秋元司被告＝自民党離党＝が収賄罪で起訴されたカジノを中核とする統合型リゾート（IR）をめぐる汚職事件に関連し、東京地検特捜部が逮捕（4日）したマルチ企業元社長の淡路明人容疑者（54）。安倍晋三首相や妻の昭恵氏と接点があり、首相主催の「桜を見る会」にも参加していました。（取材班）



（写真）2016年4月の「桜を見る会」前夜

の懇親会で首相夫妻と記念撮影する淡路容疑者＝被害者の代理人提供（画像は一部加工）

淡路容疑者はマルチ企業「48（よつば）ホールディングス」の元社長。同社は2017年10月に消費者庁から特定商取引法違反で取引停止命令を受けました。同社は、会員を勧誘すると報酬が得られるマルチ商法の典型的な取引形態で「クローバーコイン」と称する仮想通貨を販売。「1カ月半後には10倍に値上がりする」などと虚偽の説明をして会員を集めていました。

資金提供

そんな問題企業の経営者と安倍首相夫妻が「カネと桜」で接点を持っていた。『赤旗』日曜版（3月1日号）によると、淡路容疑者は、昭恵氏が関与したゲストハウスなどの複合施設「UZU（ウズ）ハウス」（山口県下関市）のクラウドファンディング（16年1月～4月）に協力し、資金を提供していました。昭恵氏は現在も運営会社の取締役を務めています。

資金提供の見返りで、淡路容疑者は同年8月13日、関門海峡花火大会にあわせて開かれたUZUハウスの開設記念パーティーにも参加。その会場で安倍首相と並んだ写真も撮影されています。

さらに淡路容疑者は、同社幹部とともに16年4月に開催された「桜を見る会」と安倍首相の後援会が開いた前夜祭に参加したことが、『赤旗』日曜版（4月19日号）のスクープで明らかになっています。



（写真）淡路容疑者のフェイスブック

への投稿。「桜を見る会安倍晋三後援会」のプレートがついたバ

スト、乗車する淡路容疑者の写真が掲載されています＝被害者提供(画像は一部加工)

淡路容疑者のフェイスブックには、会場で安倍首相や昭恵氏と並んで撮影した写真や「桜を見る会 安倍晋三後援会」のプレートがついたバスに乗車中の写真が投稿されていました。首相夫妻との写真は札幌市にある同社の本社に飾られ、会員の勧誘活動にも利用されていた、といえます。

本紙は、同社幹部とみられる人物と菅義偉官房長官が桜を見る会で一緒に撮影した写真も入手しています。知人から安倍首相や菅官房長官の写真を見せられて勧誘された関東在住の男性は「知人は『安倍さんや菅さんとツーショットを撮れるような立派な人がクローバーをやっているんだ』と強調した」と証言しています。

#### “荒稼ぎ”

写真が勧誘に使われた時期は、同社の会員が拡大した期間と重なります。その事実を裏付けるように、同社は16年9月ごろから売り上げを急速に伸ばし、17年6月までの10カ月間で19.2億円以上を“荒稼ぎ”しました。

安倍首相は「その人物(淡路容疑者)と個人的な関係はいいさえない」(2月17日、衆院予算委)と主張していますが…。

日本共産党の田村智子政策委員長は参院予算委員会(3月9日)で、こう指摘しています。

「UZUハウスや桜を見る会での記念撮影と総理の写真が使われて、結果としてマルチ商法の被害を広げてしまった。なぜこういう事態がおきたのか、ちゃんと答えるべきだ」

#### 【点描・永田町】「Go To」めぐる“菅・小池戦争”

時事通信 2020年08月09日 19時00分



記者会見する菅義偉官房長官＝7月20日、首相官邸



政府がコロナ不況下での観光支援を狙った「Go Toトラベル」事業が、7月22日にスタートした。ただ、東京での新型コロナウイルス感染再拡大で、「全国一律」のはずの事業対象から「東京除外」を余儀なくされるなど出だしから混乱が際立ち、与野党双方から「時期尚早」との批判も噴き出した。事業開始前後の政府の迷走は、推進役の菅義偉官房長官と慎重派の小池百合子東京都知事の「感情的対立が原因」(政府筋)ともされるだけに、コロナという国難に政府と自治体がワンチームで対応できない実態が、国民の政治不信を加速させている。

今回の観光支援策を主軸とする「Go Toキャンペーン」計画は、4月30日に国会で成立した今年度第1次補正予算の経済対策の柱。ただ、総事業費が約1兆7000億円で、事業実施を民間委託したことによる受託事業者の“中抜き”疑惑などから、

野党や一部メディアに「強盗キャンペーン」「Go Toトラブル」と揶揄されたいわくつきの政策だ。

今回の「Go Toトラベル」は、政府が国内旅行代金の50%相当を支援するもので、当面は事業開始以降に、旅行者の宿泊などを対象に、35%分の代金が割引となる仕組み。土壇場で東京発着での観光旅行を対象外としたため、経済効果はかなり減殺された。安倍晋三首相が「東京除外」を決めたのは、一律実施を強行して全国的なコロナ感染再拡大を招けば、政治責任につながるのと不安からだと言われる。ただ、国民への一律10万円給付や検察官定年延長など、重要政策での方針転換が続いてきただけに、今回の二転三転のドタバタ劇が、首相の求心力低下を加速させるのは間違いない。

#### ◇政治危機を象徴する“泥仕合”に

今回、政府にとっての最大の誤算は東京での感染者急増。多くの国民はコロナ第2波と受け止め、SNS(インターネット交流サイト)上でも「#Go Toキャンペーンに反対します」とのツイッターデモが盛り上がった。このため、全国一律実施を目指す首相や菅氏は東京の生ぬるい対応に苛立ち、7月11日には菅氏が「(感染者急増は)圧倒的に東京問題」と、小池百合子都知事を痛烈に批判。しかし、すぐさま小池氏も「圧倒的に検査数が多いのが東京。これは国の仕切りの問題だ」と言い返したことで、「菅・小池戦争」(政府筋)の様相となった。菅氏の発言は7月5日の都知事選での圧勝以降、小池氏が感染拡大を“放置”していることへの政府の不満を代弁したものだが、小池氏は、前倒しでの「Go Toトラベル」開始について「よく考えてほしい」と、嫌味たっぷりの言い回しで抵抗し、混乱を加速させた。

小池氏は、政府が「東京除外」を決める直前の7月16日昼前に、同日公表する新規感染者数が過去最多の280人台に達することを自ら発信。このため、同日午後の参院予算委閉会中審査で野党側が「なぜ今強行する必要があるのか」と実施延期を強く要求し、参考人として出席した専門家の発言も慎重論一色となった。さらに与党内でも、担当閣僚の赤羽一嘉国土交通相が所属する公明党の山口那津男代表が世論の反発への懸念から慎重論に転じて、政権の混乱ぶりも際立たせた。

そうした中、「東京除外」を主導した菅氏は、「都知事が外出自粛を求めたから」と小池氏の対応を槍玉に挙げ、すぐ小池氏が反発するなど対立は泥沼化。東京の感染者数はなお過去最多を更新し続けているが、小池氏は菅氏への当て付けのように「外出自粛」を繰り返すだけ。首相候補にも名前が挙がる菅、小池両氏の「どっちもどっちの泥仕合は、政治危機の象徴」(自民長老)との声も出始めている【政治ジャーナリスト・泉 宏／「地方行政」8月3日号より】。

#### 東京の医療、「逼迫してない」は誤り 発言に込めた思い

朝日新聞デジタル聞き手・月舘彩子、萩原千明 2020年8月9日 22時00分



杏林大病院の山口芳裕・高度救命救急センター

一長=2020年8月6日、東京都中央区



東京の医療は逼迫（ひっぱく）していないというのは誤りだ。杏林大病院（東京都三鷹市）の山口芳裕・高度救命救急センター長は7月22日、新型コロナウイルスの感染状況などを分析する東京都の会議でそう訴えた。ちょうどこの日、「Go To トラベル」事業がスタート。「第1波」に比べ、医療体制に余裕があると強調する政府に疑問を呈した。発言の裏にどんな思いがあったのか、話を聞いた。

「逼迫していない」との発言をテレビのニュースで聞いたのは、会議の前日でした。安倍晋三首相は自民党の役員会で、菅義偉官房長官は定例記者会見で相次いでそう言っていました。違和感がありました。

いま東京の入院者は約1500人。確保している病床は2400床。入院中の重症者は20人以上。数字だけ見れば「余裕があるじゃないか」と思うかもしれませんが。でも数字では見えない現場の負荷があります。

杏林大病院でも、7月後半から感染者の入院や、感染が疑われて救急搬送されてくる「疑い患者」が増えてきました。そのたびに救命救急センターでは、（高性能な）N95マスクやガウン、手袋などフル装備で対応します。診断結果が出るまでの間、疑い患者は病院が感染者用に準備している陰圧室に入ります。

感染者用の病床を増やすのは簡…

残り：1429文字／全文：1952文字

## 都内の入院患者、増加ペース速まる 初の1600人突破

朝日新聞デジタル軽部理人 2020年8月9日 20時42分



新型コロナウイルスの感染拡大が続く東京都で、入院患者も右肩上がりに増えている。9日には1601人を数え、緊急事態宣言が5月下旬に解除されてから初めて1600人を超えた。都が確保したとする病床数の2400まで数字上は余裕があるが、ペースは速まっており、専門家からは危惧する声も出ている。

都内では1日あたりの感染者が9日まで13日間連続で200人を超えるなど、感染が広がっている。日々の感染者のうち、入院するかどうかは年齢や症状、重症化するリスクなどが考慮されて決まり、軽症や無症状であれば宿泊や自宅療養の対象になることもある。都内の入院患者は9日時点で1601人で、前日から92人増加。5月12日の1413人を抜き、連日のように最多を更新し続けている。

実際、入院患者が増えるペースは速くなっている。1週間単位でみると、8月2～9日の間、入院患者は1315人から1601人と

なり、286人増えた。7月26日～8月2日の150人増、7月19～26日の248人増を上回るペースだ。最近は無症状の高齢者もあり、念のために入院するケースもあるという。

都は現在、病床を2400床確…

残り：355文字／全文：829文字

しんぶん赤旗 2020年8月9日(日)

PCR拡大 方針示す 厚労省 地域関係者 幅広く対象

厚生労働省は7日、新型コロナウイルス感染症対策のPCR検査について「地域における感染状況を踏まえた幅広い検査」を求めるなどの新しい方針を示しました。地域的感染が見られる場合に感染が発生した店舗などに限らず、地域関係者を幅広く検査対象とすることや、病院や高齢者施設で、「感染の可能性が高い場合」はすぐに検査できるようにするなどしました。

各地で、エビセンター（感染震源地）化した地域を特定し、網羅的な検査を進めるべきとしてきた日本共産党や医師会、地域住民の声をうけさらなる検査拡大に踏み込んだものです。

方針は、同省「新型コロナウイルス感染症対策推進本部」が発出した事務連絡「新型コロナウイルス感染症に関するPCR等の検査体制の更なる強化について」で示されたもの。

厚労省は7月15日の事務連絡で、有症者や「濃厚接触者」に制限していた行政検査の対象を、「患者が複数発生」するなど感染の確率が高いことなどを条件に、組織、地域に属する全員を検査の対象とする方針を示していました。今回の方針は、さらに、感染が発生した店舗だけでなく、「地域関係者を幅広く検査する」「積極的に検査を検討いただきたい」とし、地域の住民、事業所の在勤者への検査を可能とするものとなっています。

事務連絡は、PCR検査をめぐる検体採取の負担軽減のために、唾液検査の活用も示しています。

また、病院内や高齢者施設内感染対策の強化として、「感染の可能性が高い場合は、医師の判断のもとで迅速に検査できる体制を構築することが重要」だとして、「検査の考え方について別途通知」としています。感染が広がれば医療崩壊に直結する可能性が高い施設について、「感染者の発生」を前提にしない検査を示唆したものです。

これら方針を実現していくためには、最大5・6万といわれる検査能力の拡大や、すでにひっ迫している保健所体制を拡充することが必要です。沖縄県などでの感染拡大を考えれば、都道府県任せにせず、自治体と協力した国の広域的な対応が求められます。

しんぶん赤旗 2020年8月10日(月)

## 感染震源地を面とした住民対象のPCRを NHK番組で小池書記局長 各党も拡充主張

日本共産党の小池晃書記局長は9日のNHK「日曜討論」で、急拡大している新型コロナウイルス感染抑止のため、感染震源地の住民や働く人全体を、面として対象にしたPCR検査の大規模な実施を提案しました。各党からも検査拡大を求める声があがりました。

小池氏は、無症状者が感染を広げることがコロナウイルスの特徴だと指摘。症状のある人や濃厚接触者に限定せず感染震源地での網羅的な検査を求め、「そのための検査体制や保健所、療養施設の拡充が必要だ」と主張しました。

立憲民主党の福山哲郎幹事長は「いまのような制約された検査は経済活動にも支障をきたす」と指摘し、国民民主党の泉健太政調会長は「積極的検査をすることが社会の安全、経済を回すことにつながる」と述べ、それぞれ検査の拡充を強調。自民党の稲田朋美幹事長代行も「検査を拡大していくことは重要」と述べました。

政府がお盆の帰省の一律自粛は求めないものの感染防止対策の徹底を呼びかけたことに関し、小池氏は「結局は個人の責任になり、国として無責任だ」と指摘。全国知事会が慎重な判断を呼びかけていることもあけ、「これ以上の感染拡大を抑えるためには、流行している地域からの帰省、あるいはそこへの帰省を控えるよう政府として統一方針を示すべきだ」と訴えました。

野党が憲法に基づき要求している臨時国会の召集について小池氏は、「応じないのは憲法違反だ。国会には立法だけではない行政監視機能がある」とし、安倍首相出席のもと与野党を超えて感染拡大防止へ知恵を出し合うべきだと述べました。

泉氏は「憲法に基づくことは大きい」とし、福山氏も「小池氏のように総理が出て説明すべきだ」と強調しました。

## 香港立法会選延期で「特例」議論 民主派排除の可能性—中国全人代常務委

時事通信 2020年08月08日 22時05分

【北京時事】中国の全国人民代表大会（全人代）常務委員会の会議が8日、北京の人民大会堂で始まった。香港の林鄭月娥行政長官が9月の立法会（議会）選挙の1年延期を発表したことを受け、現職議員の任期延長など「特例」を議論し、11日までの会期中に決定する見通し。その際、民主派議員を排除する解釈が示される可能性が出ている。

国営中央テレビによると、8日の会議では国務院香港・マカオ事務弁公室の夏宝竜主任が、「香港立法会の継続運営」に関する決定を全人代常務委に求める提案理由を説明。この中では選挙の延期を「法的根拠も十分で、新型コロナウイルスの感染が拡大する現状にも合致している」と評価した上で、「延期により生じる立法機関の空白に対する関連決定が、香港の繁栄と安定のために必要だ」と指摘した。ただ、常務委が議論する決定案は公表されていない。

焦点は、香港の選挙管理当局が選挙延期発表前に立候補禁止を命じた民主派12人のうち現職4人の扱い。全人代常務委員の譚耀宗氏は中国メディアの取材に「立候補資格を取り消された4人の扱いについて意見は分かれている」と述べ、排除に含みを持たせた。4人が失職すれば、立法会の民主派勢力が3分の1を下回り、親中派に有利な法律の成立を阻止できなくなる恐れがある。

## 中国、香港選挙の延期対応協議へ 全人代常務委開催

2020/8/9 00:50 (JST)共同通信社



中国全人代常務委員会の会議＝8日、北京の人民大会堂（新華社＝共同）

【北京共同】中国は8日、全国人民代表大会（全人代＝国会）常務委員会の会議を開き、9月の香港立法会（議会）選挙の1年延期を受け、議員任期など選挙延期で生じる空白期間の問題に関する議題を審議した。国営中央テレビが報じた。

中国政府は、全人代常務委が法に基づき速やかに関連の決定をすることは、香港で正常な政治と社会の運営を確保し、繁栄と安定を保つため必要だとの認識を強調した。会議は11日まで。

香港の親中派重鎮、譚惠珠氏は8日までに、全人代常務委で現職立法会議員の任期の1年延長が決まるとの見通しを示した。

## 香港選挙延期に懸念表明 米英など5カ国外相

2020/8/10 00:39 (JST)8/10 00:51 (JST)updated 共同通信社

【ワシントン共同】米国、英国、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド5カ国の外相は9日、共同声明を発表し、香港立法会（議会）選挙の延期について「香港の安定と繁栄の根幹である民主的手続きを損なう行為だ」と、深刻な懸念を表明した。中国による香港国家安全維持法（国安法）施行に関しても「香港市民の権利と自由を侵害する」と非難した。

中国の全国人民代表大会（全人代＝国会）常務委員会が、香港選挙の1年延期で生じる議員任期の空白期間の問題などを審議しているのを受け、香港の民主主義を尊重するよう圧力をかける狙いがあるとみられる。

## 香港政府「米制裁は卑劣」と批判 中国の報復措置、全面支持を表明

2020/8/8 18:09 (JST)8/8 18:17 (JST)updated 共同通信社



記者会見する香港政府の林鄭月娥行政長官＝7日（AP＝共同）

【香港共同】香港政府は8日、トランプ米政権が林鄭月娥行政長官ら11人に制裁を科したことを「恥知らずで卑劣だ」と批判する声明を発表した。さらに中国政府が報復措置を取ることを全面的に支持すると表明し、米国への対抗姿勢を鮮明にした。

香港政府報道官の声明は「米国が野蛮にも公然と中国の内政に干渉した」と指摘。一部の政治家の私利に基づき、香港を利用して米中関係にトラブルを引き起こしており、国際法にも違反すると批判した。

声明によると、林鄭氏は「国家の安全を守ることは荣誉ある任務だ。守るのは香港だけでなく中国本土の14億の人民の生命と利益だ」と述べた。

## 韓国の文政権、続く逆風 住宅高騰、側近が辞意表明

2020/8/8 16:22 (JST)共同通信社



7日、ソウルの大統領府で盧英敏秘書室長（左）と言葉を交わす文在寅大統領。盧氏は同日、辞意を表明した（聯合＝共同）

【ソウル共同】韓国の文在寅政権への逆風が続いている。住宅価格高騰に国民の不満が募る中、最側近の盧英敏秘書室長らが“マンション蓄財”に固執したとして、批判が殺到。盧氏ら大統領府の高官6人が7日、一斉に辞意を表明する事態に発展した。

市民団体によると、2017年の文政権発足以降、ソウルのマンション価格は約5割上昇。政府は増税などで複数住宅の所有を抑制する政策を進めている。

盧氏は国民への模範を示すとして、複数住宅を所有する大統領府高官は1戸を残して売却するよう勧告。しかし盧氏自身が、2戸のうち、資産価値の高いソウルの物件を残そうとしたため、批判を浴びた。